

肌色の青春

■ chapter①

1

寝取られ
注意

無理
するな!!

高井唯人



寝取られ 注意



この物語はNTR要素を
多く含んでおります
苦手な方はご注意下さい。

肌色の青春

chapter1



N 県 H 島

海に浮かぶ小さな島だが
日に二回
本州への定期船が出ているため
現代社会から完全に取り残された
孤島というわけでもない



明日から
夏休みです
お家の人の言う事を
よく守って
危ない所へ行ったり
しないように

では今学期最後の
号令ですー





かすがい
春日井ソラ

定期船のおかげで
通販も利用でき



多少の不便はあれど
島の住人は
それなりに
暮らしている

うさみ
あかね
宇佐美茜



ほそかわあい
細川藍

ほりいもえぎ
堀井萌黄

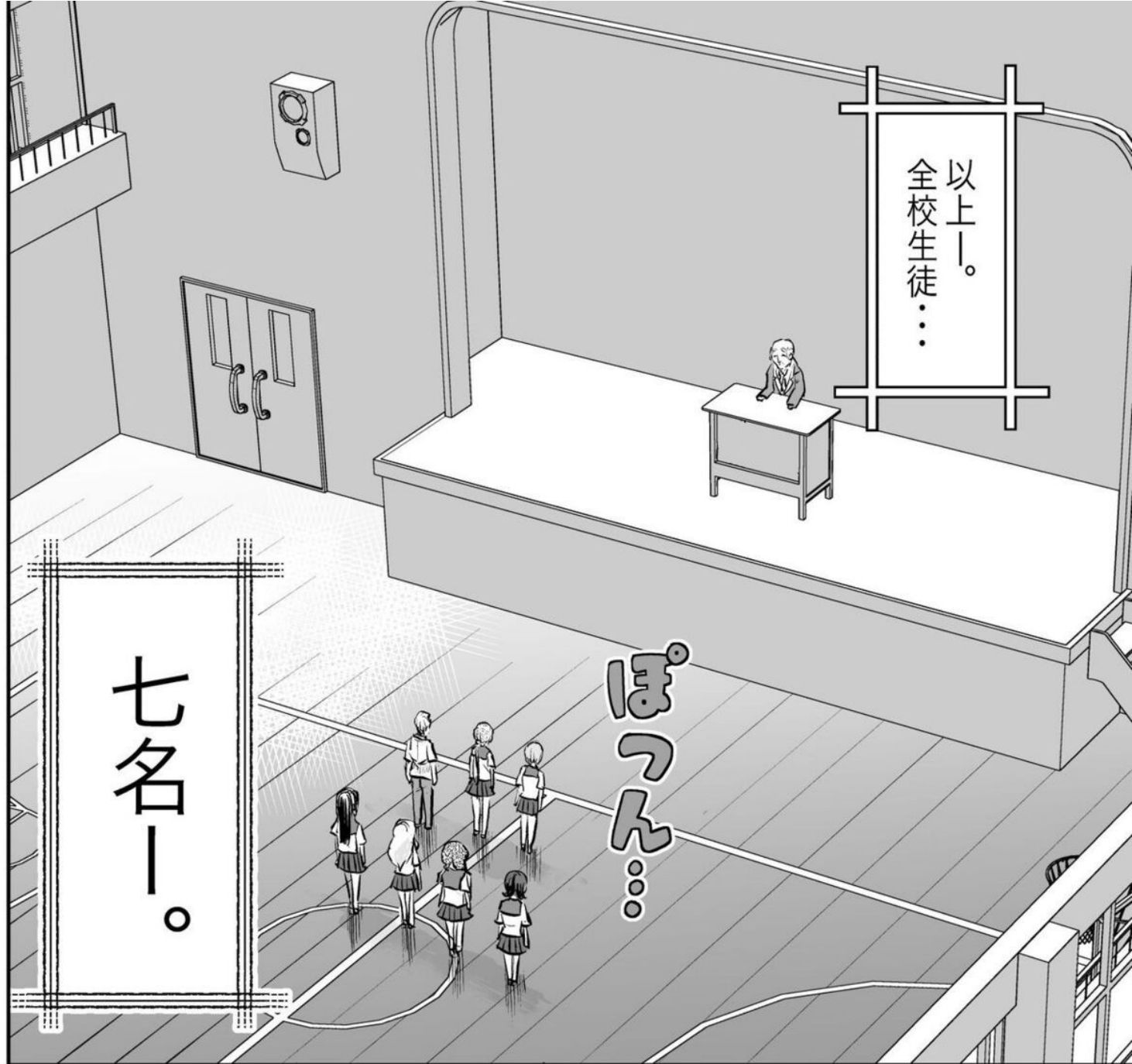
こばやしあきら
小林翠

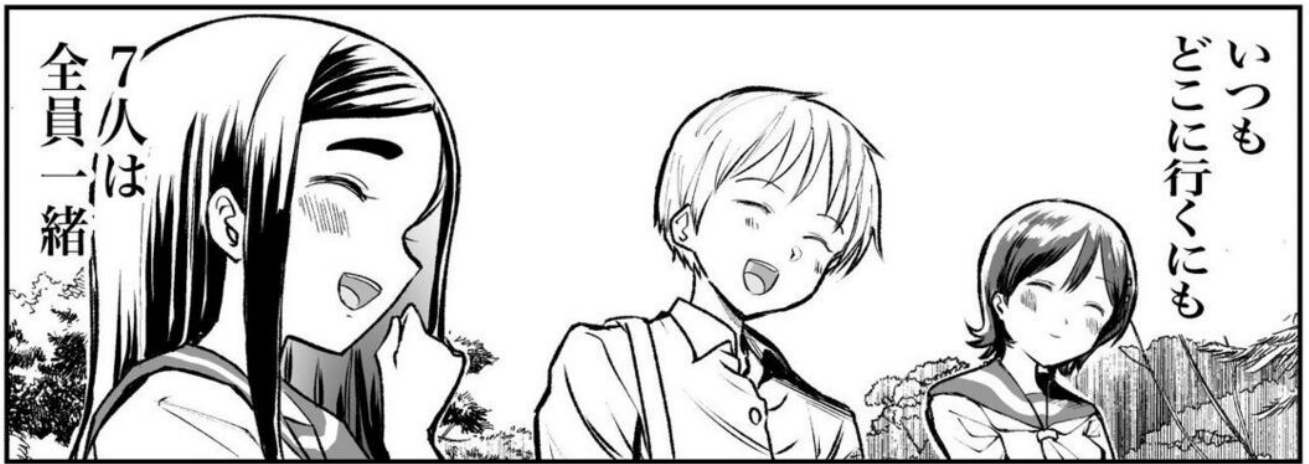
だがそれでも

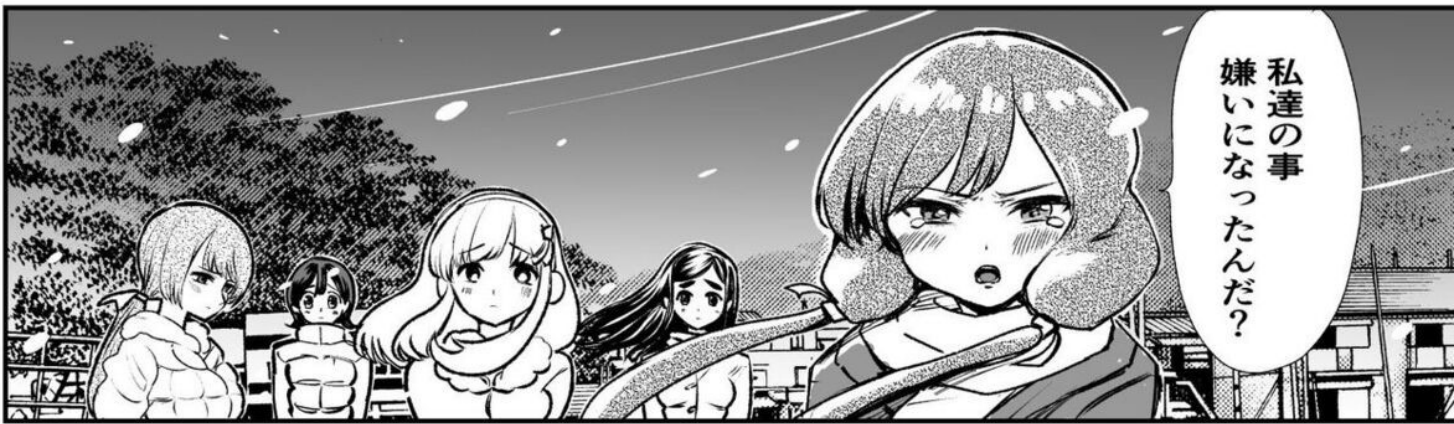
小さな島が抱える
過疎化という問題を
この島も例外なく
抱えていた

くわたゆず
桑田橙

ふじいしおん
藤井紫苑









そんなのいいじゃん
私達とここで
暮らせばいいじゃん…

なんで…



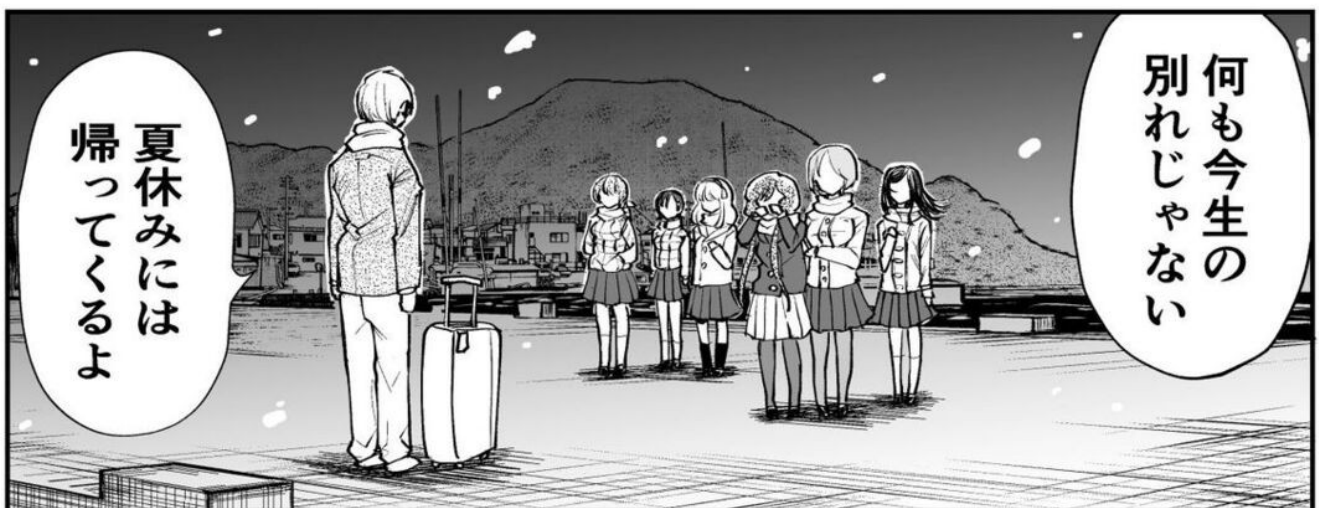
言っただろう
学びたい事があんだ
そのためには
本州の進学校へ入って
大学を目指さないと



空
茜ちゃんにここまで
言わせたって事
それだけは忘れちゃ
ダメだからね



茜、空が自分で
決めた事だよ
それ以上
邪魔したらダメだよ



夏休みには
帰ってくるよ

何も今生の
別れじゃない



こうして俺は
子供の頃から過ごしてきた島や
皆々と離れ
一人 本州の高校へ進学した

ユルユルユル

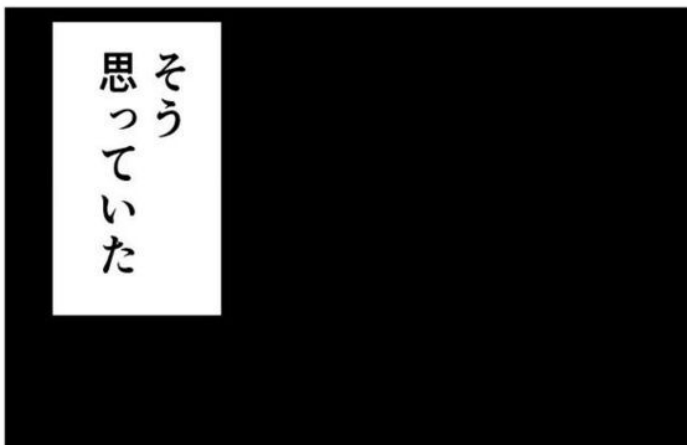


俺達の絆は
離れていったって
何も変わらない



だけど大丈夫
俺には帰る場所が
あるから

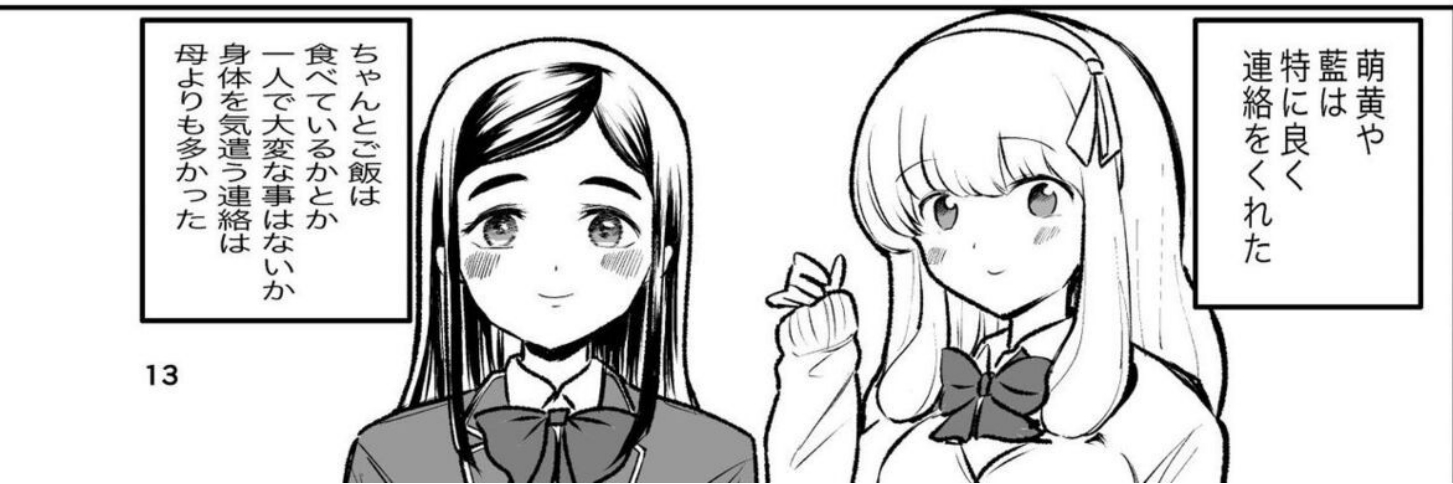
ざああああ



そう
思っていた



本州の生活が
始まってからも



ちゃんご飯は
食べているかと
一人で大変な事はないか
身体を気遣う連絡は
母よりも多かった

萌黄や
藍は
特に良く
連絡をくれた



ずっと離島で
育った俺には

初めての
独り暮らし



夜なのに人が
いる……
てか明るっ！

何もかもが新鮮で
わからない事だらけ



翠^{あざみ}や紫苑^{しおん}や橙^{ゆず}からも
本州はどんな所だ
どんなお店が
あるかと連絡がくる



茜からだけは
まだ一度も連絡が
来ていない



そうこう
している間に
入学式も終わり



学園生活が始まると
忙しさにかまけて
皆んなと連絡を取る回数も
減っていった



ねえ 春日井って
どこ中 出身なの



H島学校
だけど

*H島学校は中高一貫

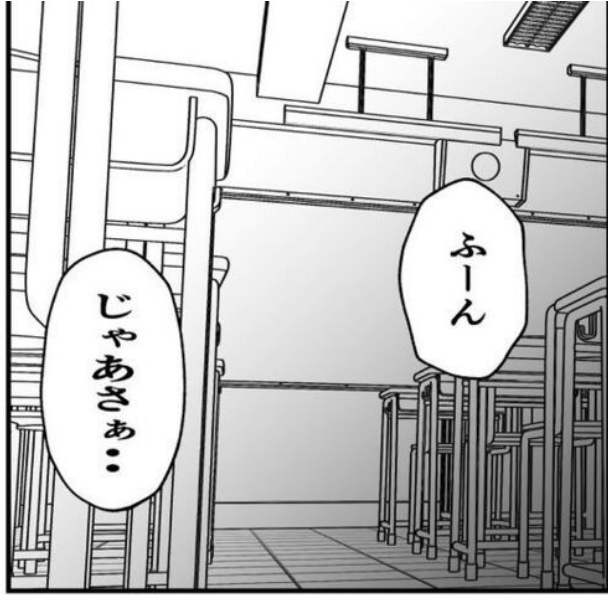


へー、春日井以外
全員女の子で
全生徒7人…

春日井だけ
進学するために
こっち
本州来たんだ



えっ!?
あの離島出身なの!?



ふーん

じゃあさあ...



ハ、ハーレムとか
そういうんじゃないから

てことは
ハーレムな生活を
捨ててきたんだあ
もったいないないない



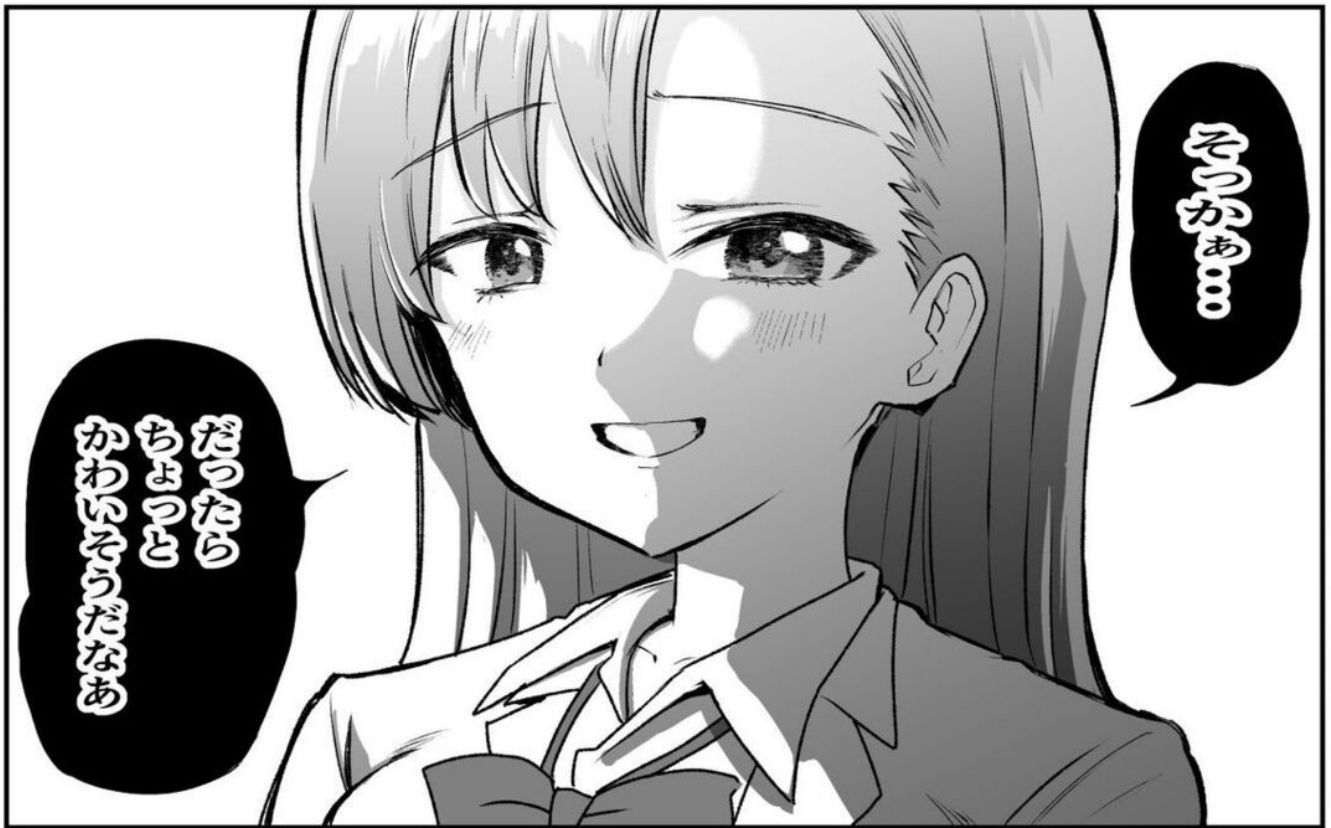
春日井にとって

その娘達は
大切な人達
なのかな



当たり前だよ

六人とも
一番大切な仲間だよ



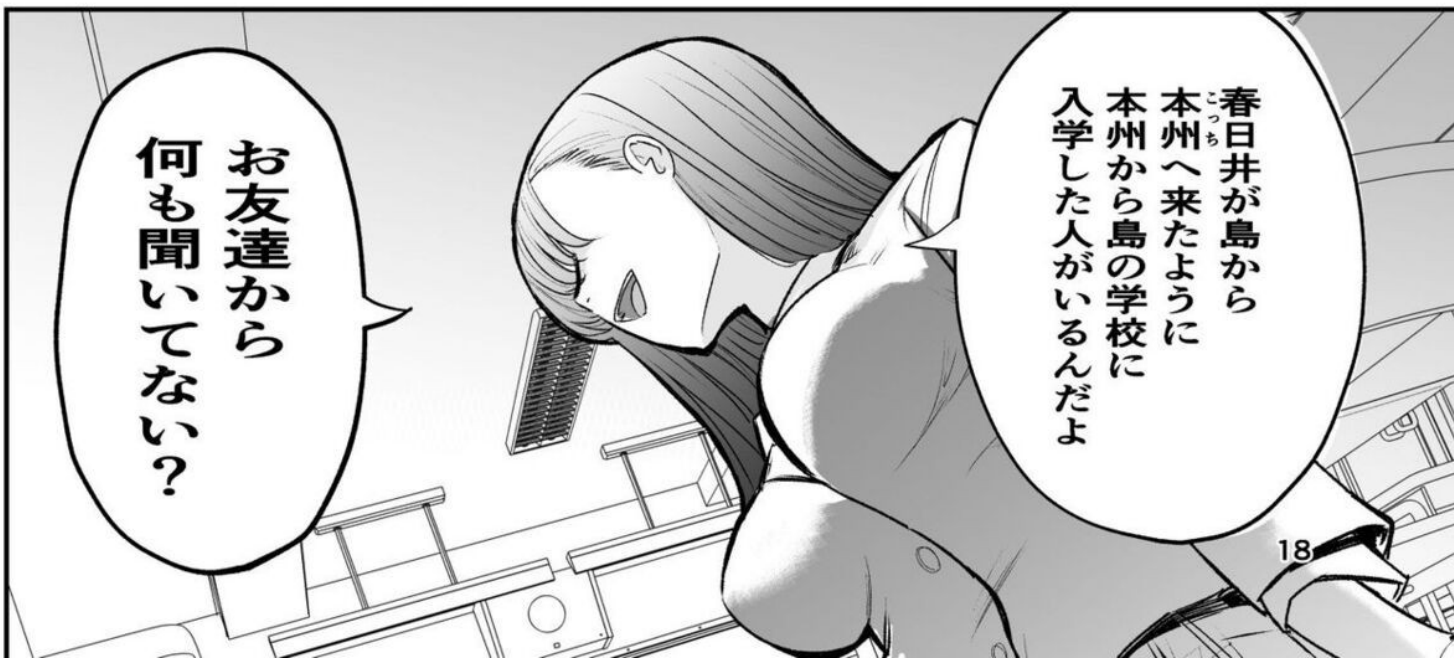
さっかあ

だったら
ちよつと
かわいそうだなあ



え

それ
どういう
……?



春日井が島から
本州へ来たように
本州から島の学校に
入学した人がいるんだよ

お友達から
何も聞いてない?



本州から
島の学校へ？

そんな話し
……
聞いてない……



その引っ越して
行った男がね

こっちでは
有名な
やばい奴
なんだよね



やばいって
どんな風に
……？

男……



そいつさー
……



女の子に
見境がない

すっごい
ヤリチンなの





その夜
皆んなの夢を
見た



皆んなの
見慣れた笑顔と

笑い声



けど、
皆んなは

俺が
見た事ない姿で



その中心に

知らない
男がいた

黒崎龍司

手が早い奴でさあ
もしかしたら
もう



お友達
全員

食へられちゃっつ
かもね



茜達に限って
そんなバカな話しが
あるわけない

けど、

春日井が島から
本州へ来たように
本州から島の学校に
入学した人がいるんだよ

あの話は本当なの
だろうか？

だったとしたら
島のみんなは
なんでその事を
俺に黙っているんだ？

自分から
皆んなに
聞くんが
怖い



どうしても
不安が拭えない俺は
皆んなに内緒のまま



一度島に帰った



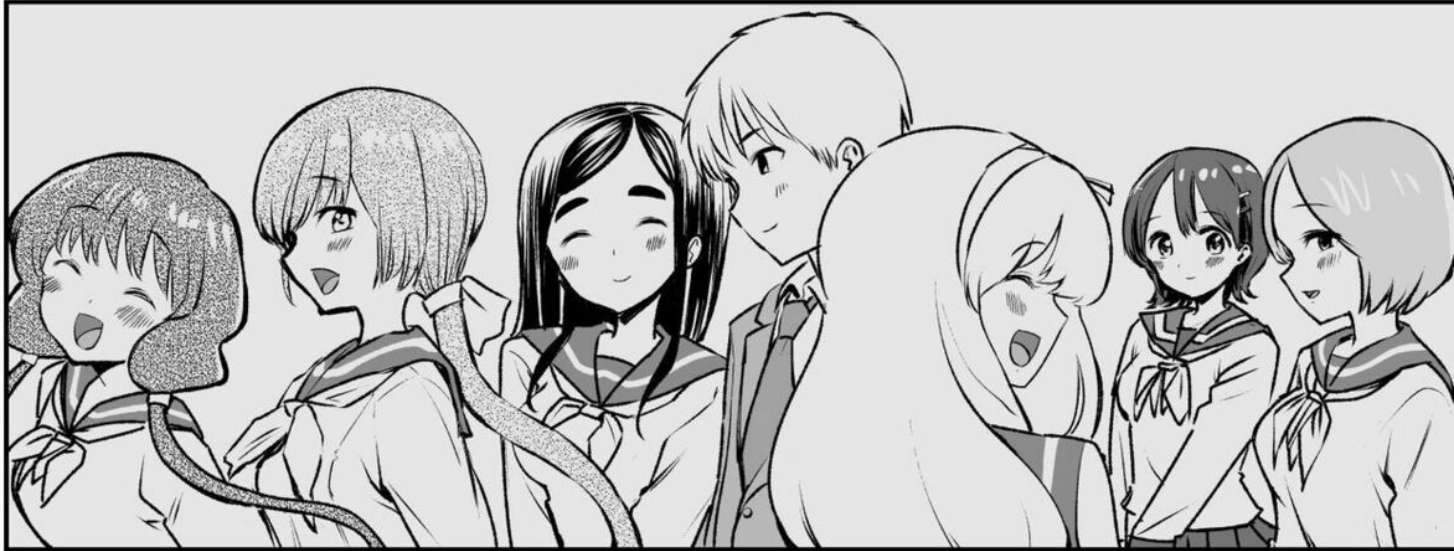
学校帰りに
いつも皆んなで
通った道



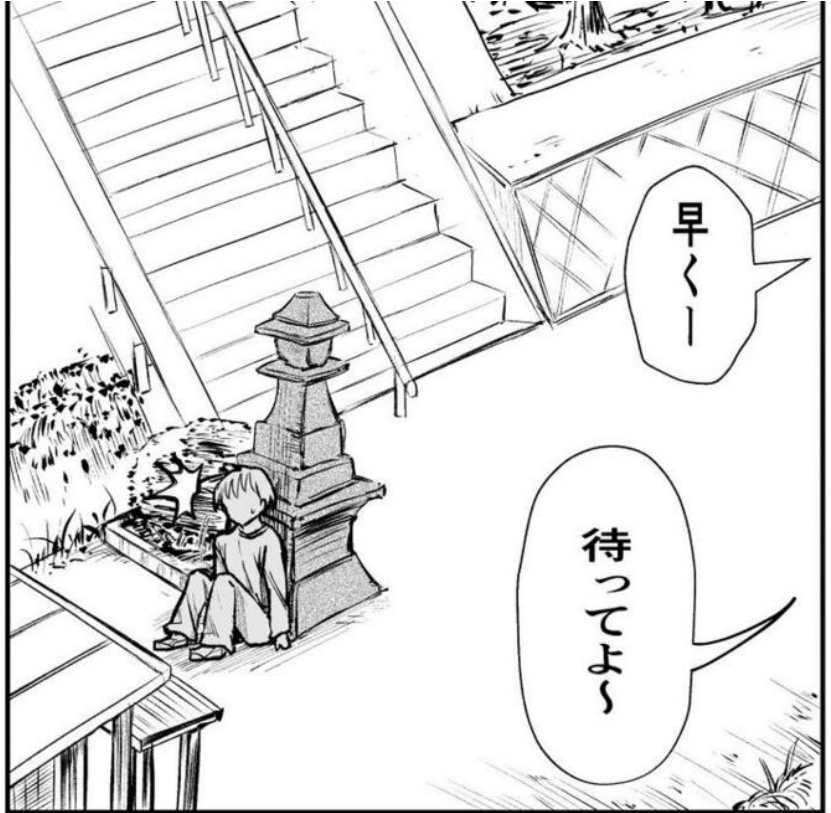
こんなすぐに
帰ってくるなんてな...

あはは

あせ
あせ



ここで
待っていれば





カツ丼
食って行こうぜ

いや
カツ丼は
重いよ



待てよ
こっちはお昼足りなくて
腹減ってるんだから



茜と翠
いつも元気な
あの二人が先頭で



翠
相変わらずだな



二人とも
歩くの速いよ



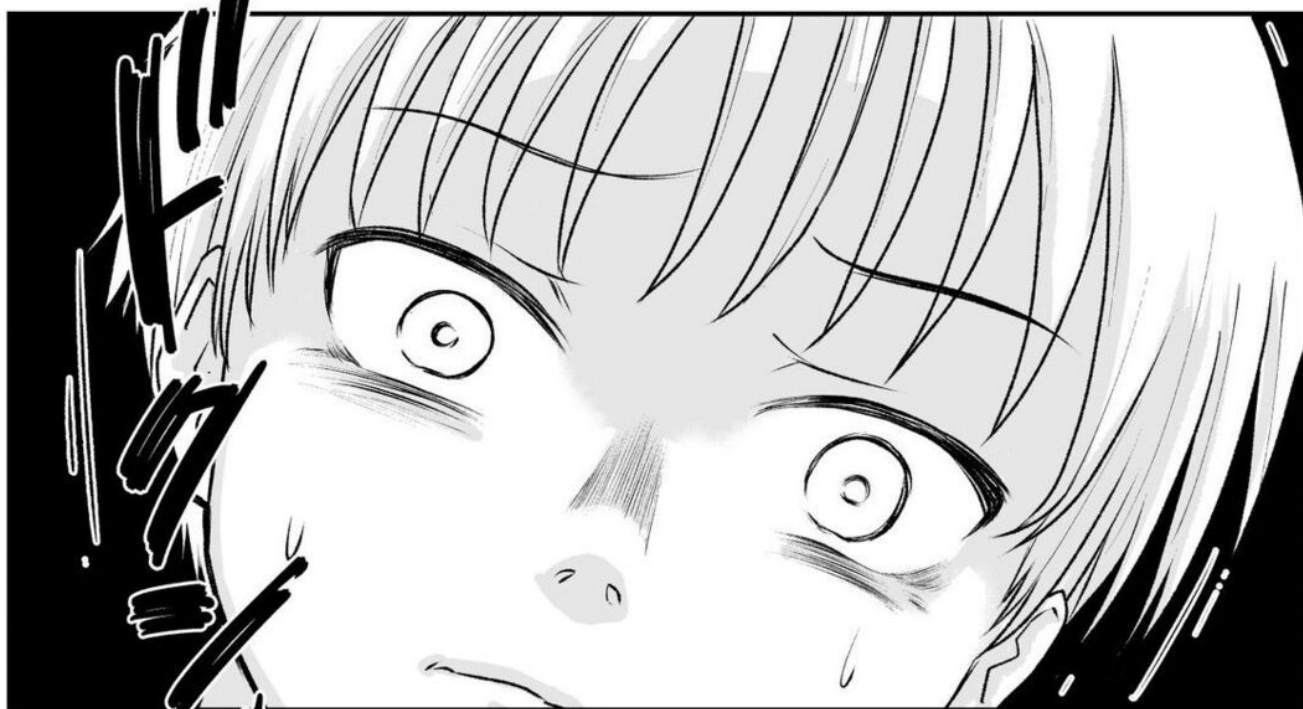
萌黄や
紫苑はマイペース
なんだよな



萌黄

この声は

は







本州から
島の学校に
入学した—



アイツが…



…
本当だったんだ

本当に
この島の学校に…



もう皆んなとも
仲良くなっているみたいだ

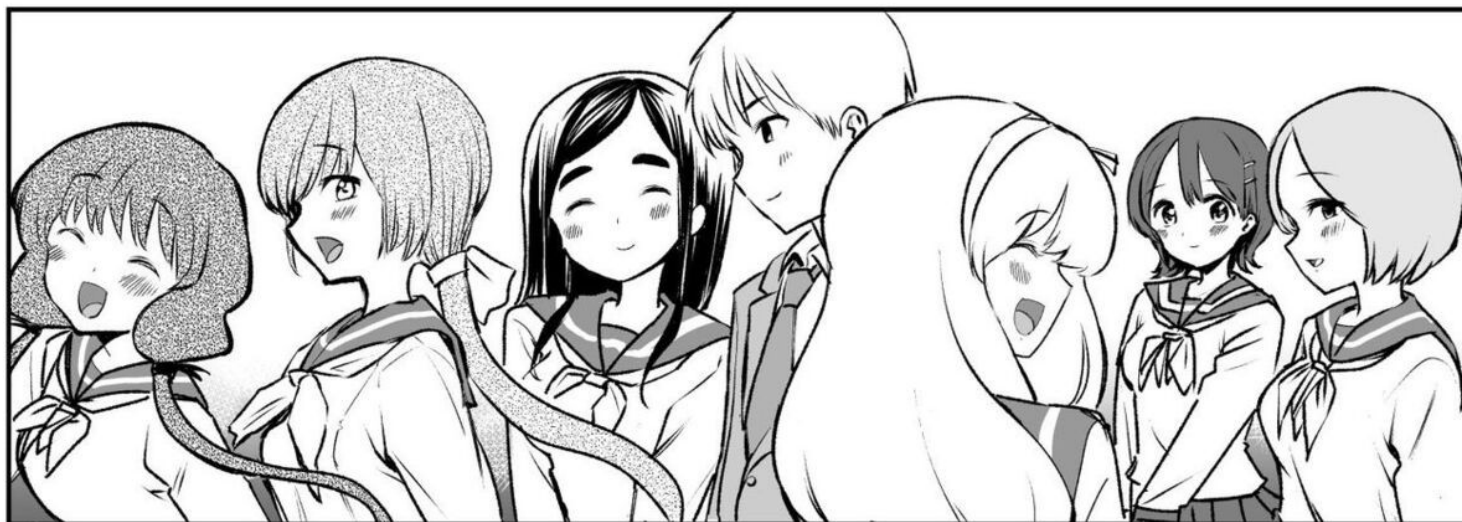
いや、皆んなは
新しく来た人間を
仲間外れになんか
したりしないもんな







ほんの少し前まで
あそこに居たのは
俺だった



さつき
藍が
居なかったぞ
……?

あれ？
そういえば
藍は？



あれ？
空？



藍。。。



やっぱり
空だー

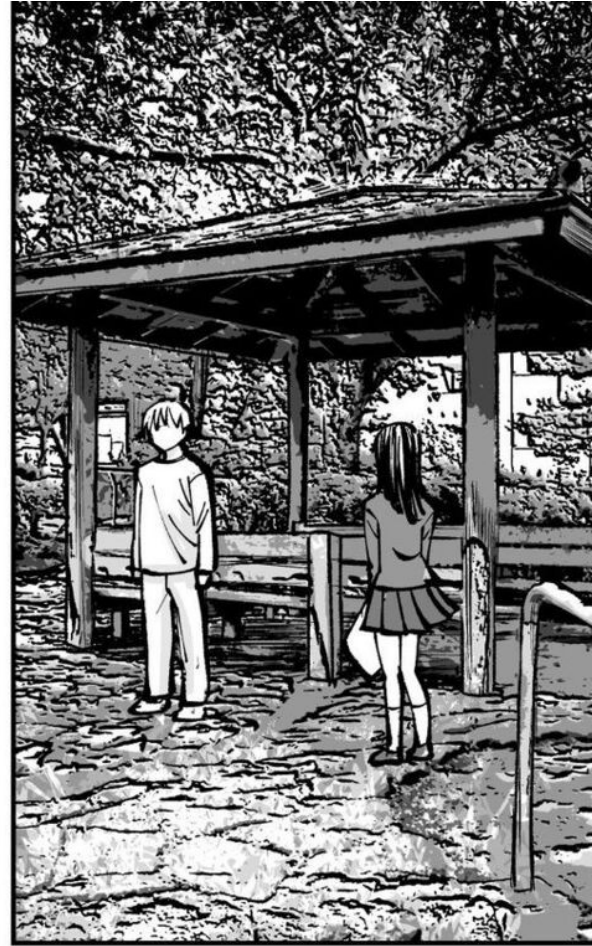
なんでー



藍は皆んなど
一緒に帰らなかったのか？

今日は帰りに
おじいちゃん家で
お野菜貰ってきてって
お母さんに頼まれてたから

ザッ
ザッ



誰にも言っていない
から...



それより
空
島に帰ってくるなんて
聞いてないんだけど

あ、
ああ...

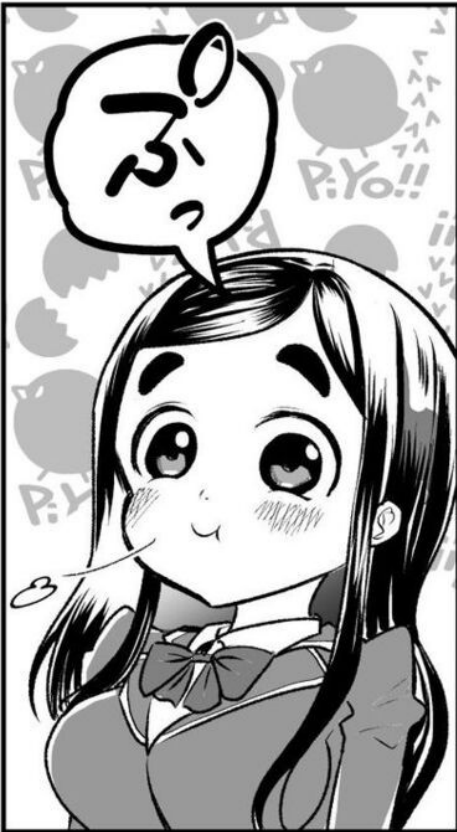
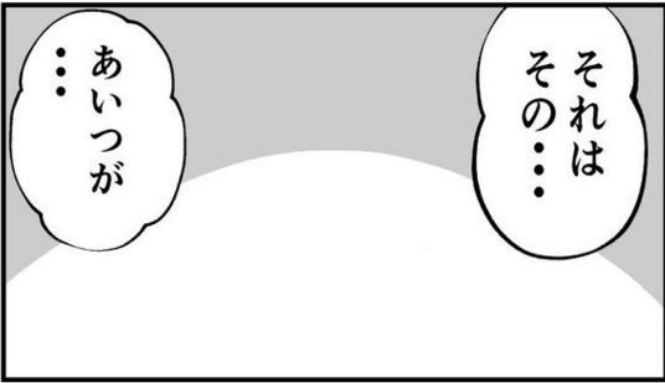


島に帰って来たのに
私達に
会わないつもり
だったの？



どおして？





あははは
何それ

確かに
黒崎君
モテそうな感じは
あるけど

そ、そういう
意味じゃなくて

けど
この島のみんなは
恋愛とか
そういうのは
疎い娘ばかりだよ

空とだって
ずっと一緒にいたって
いっさい
そういうのは
なかったでしょ

うん……まあ

けど、空が
実はヤキモチヤキモチ
だったとはね

な!!

ヤキモチなのかは
わからないけど
さつき茜達が
一緒に帰る姿を
見たんだ



この間まで
俺のいた
場所にな
今はいつ
あいつが
いる



え



この島で
たった7人だけの子供達

私達はいつだって
一緒だったよね



ソラ

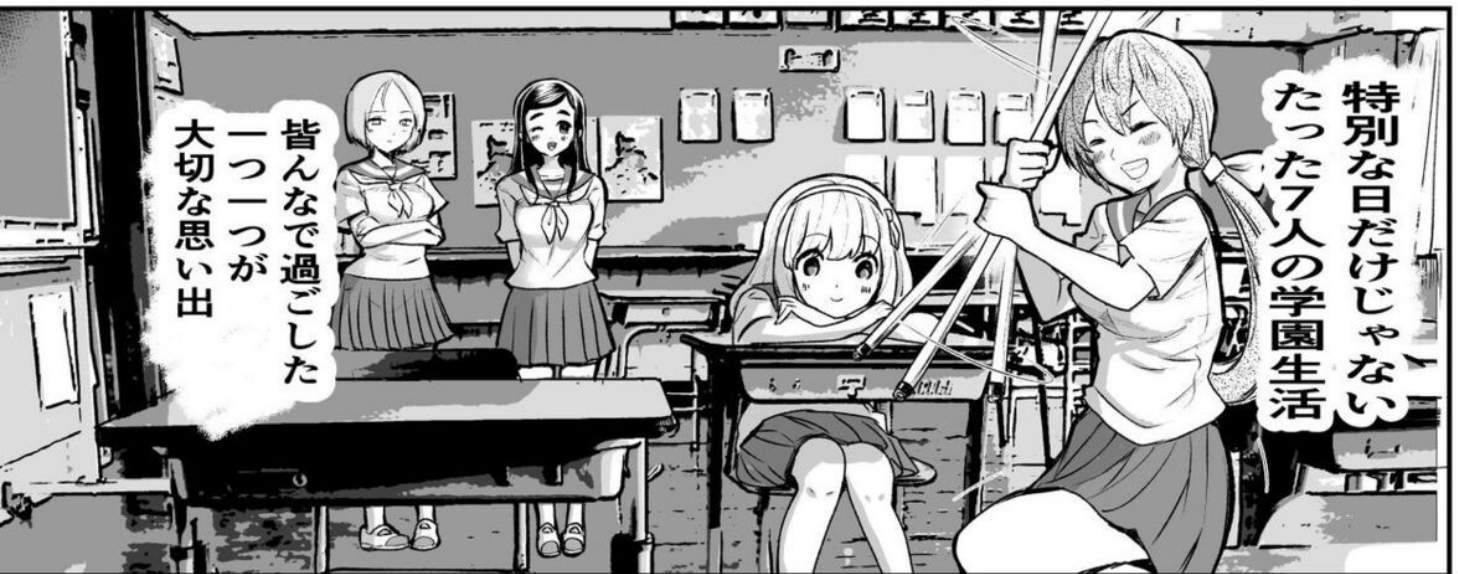
それは違うよ



沢桔梗の
群生地を探索したり



夏は毎年
みんなで海で遊んで



みんなで過ごした
一つ一つが
大切な思い出

特別な日だけじゃない
たった7人の学園生活

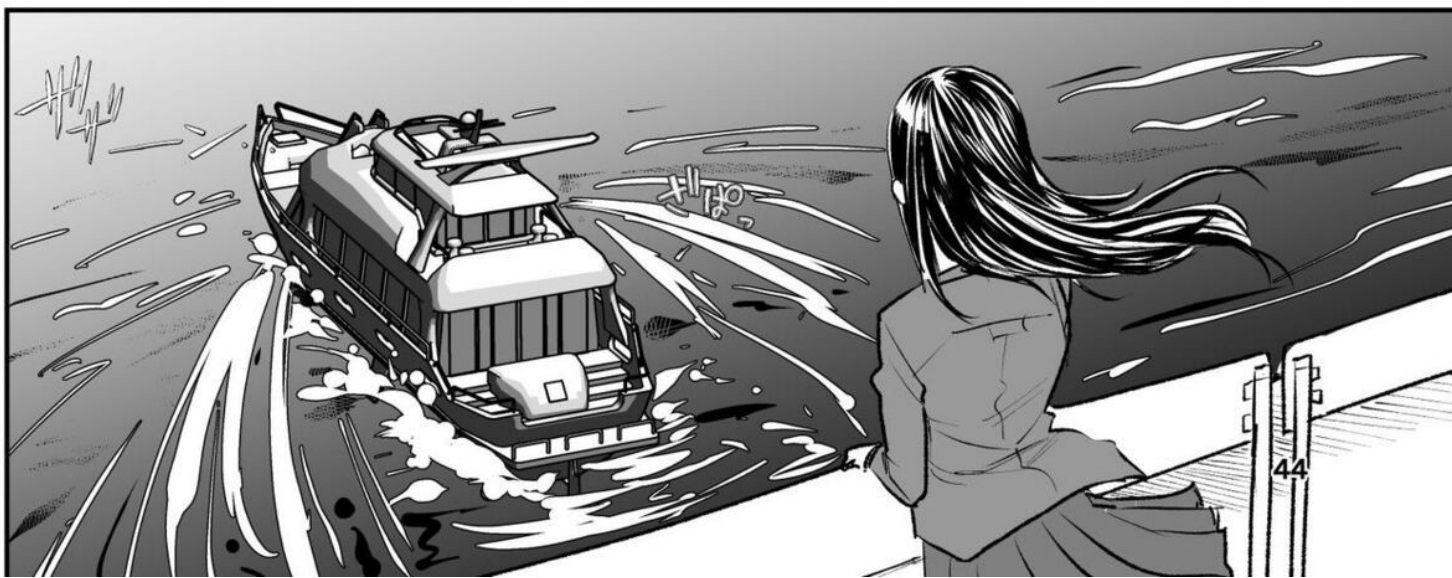


空

だからね











藍と話せて
良かった

俺は何を
心配していたんだろう

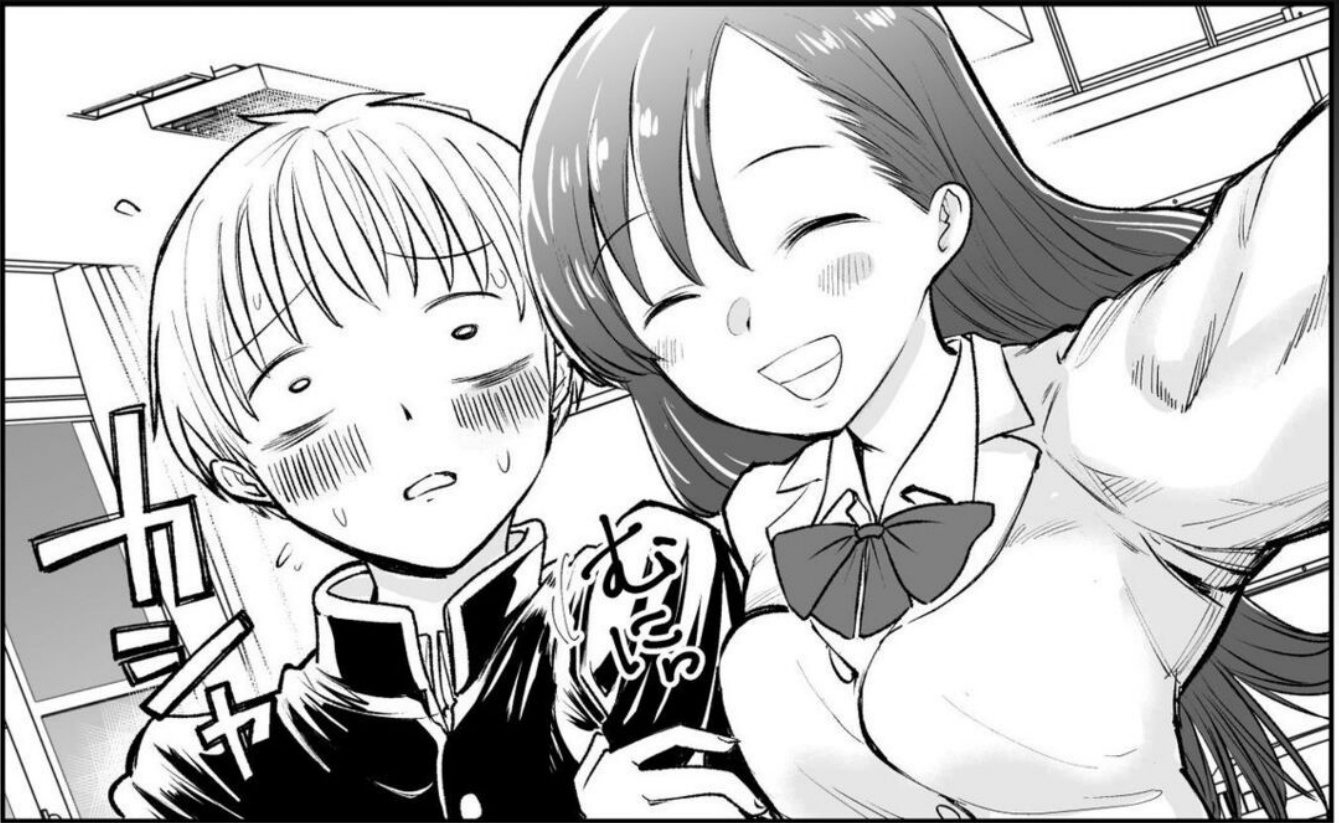
あんな
冗談をまに受けて
飛んで帰ってきて
しまつて
今思えば
恥ずかしいな

もう
お友達全員
食べられちゃつて
かもね

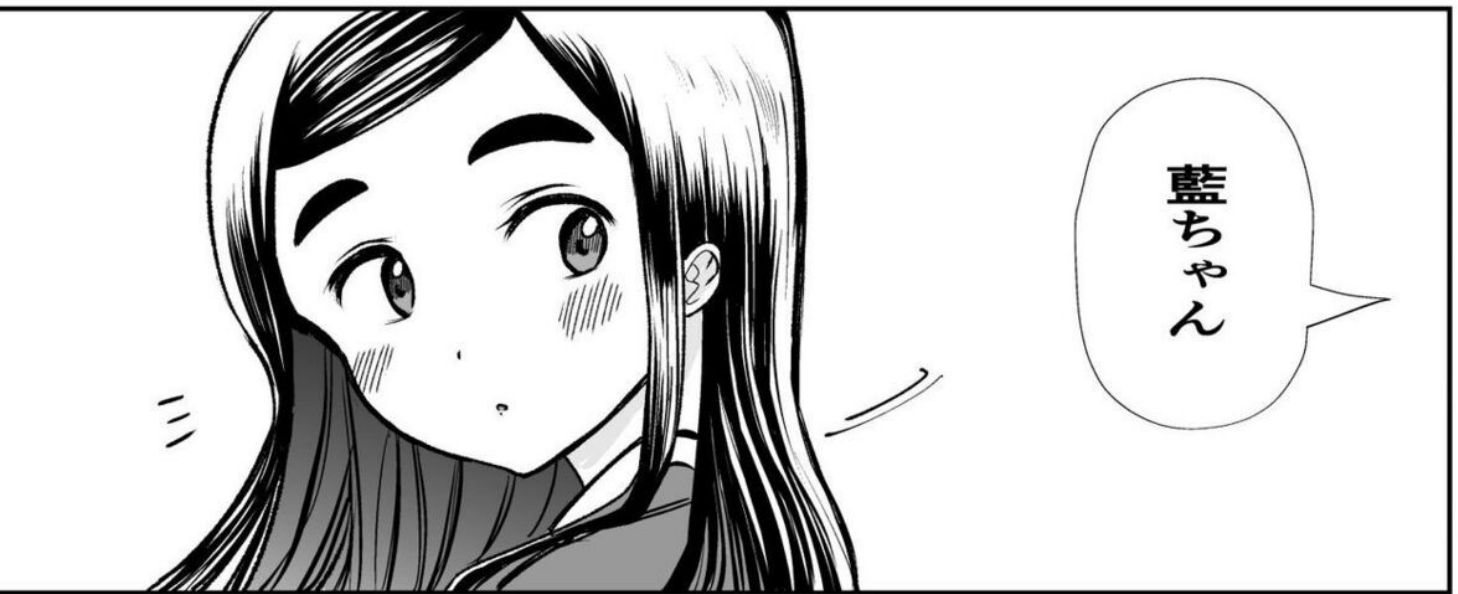
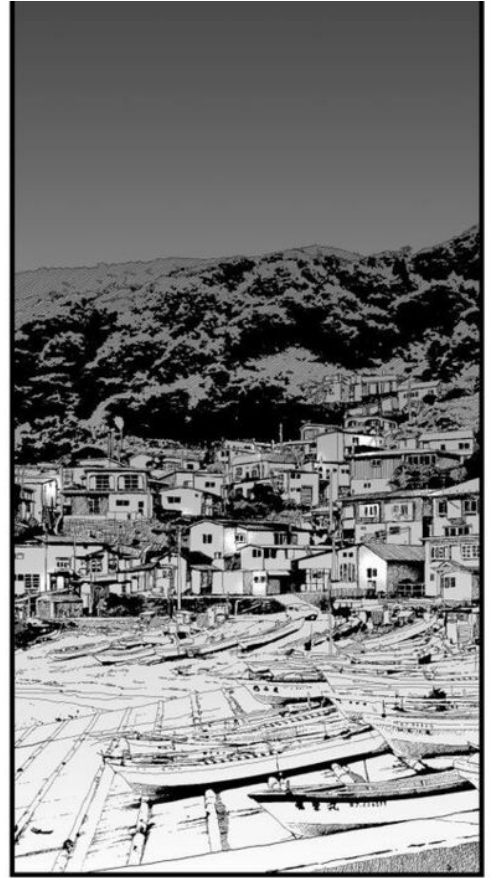


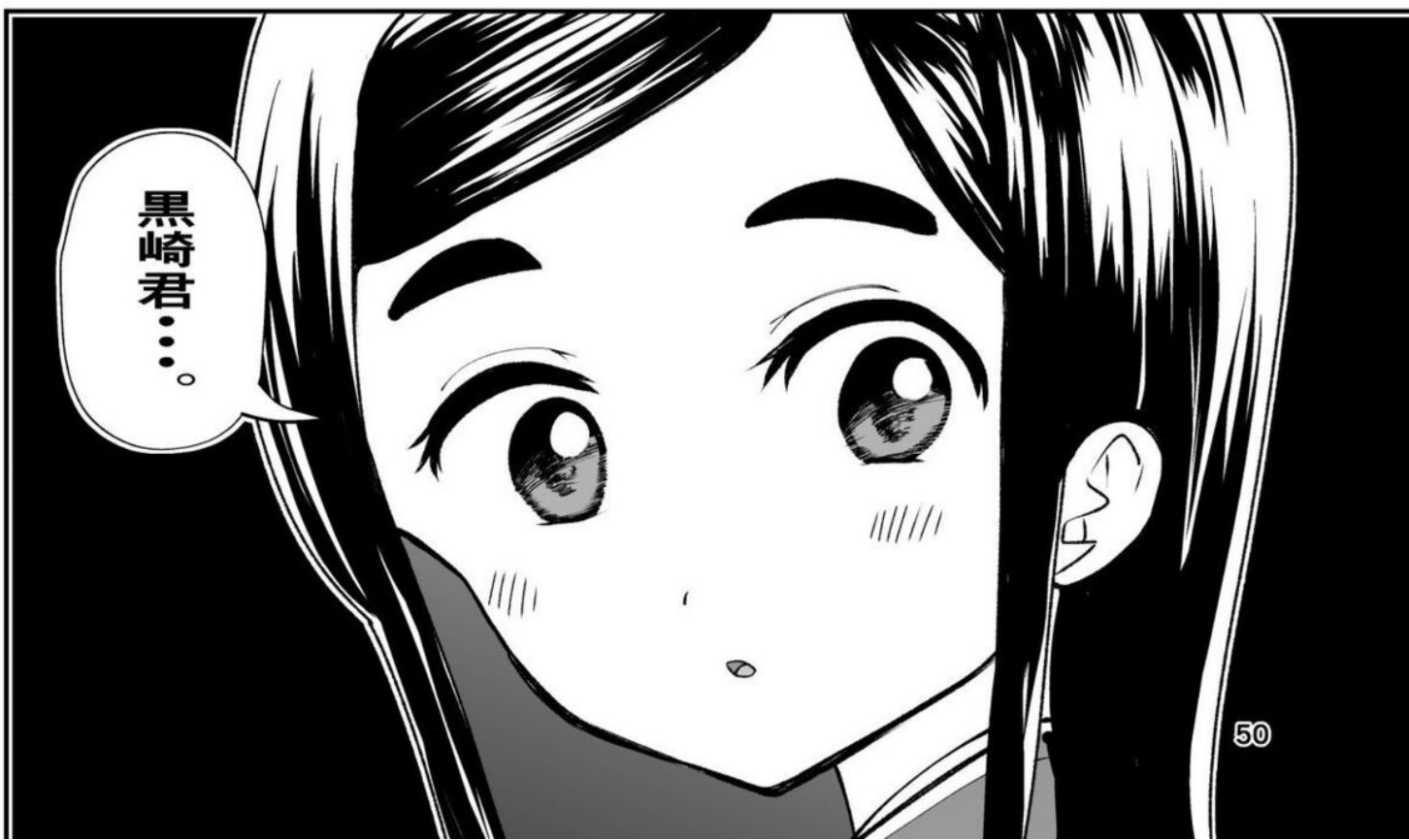
春日井
大丈夫？

冗談よ、冗談。
ごめんね









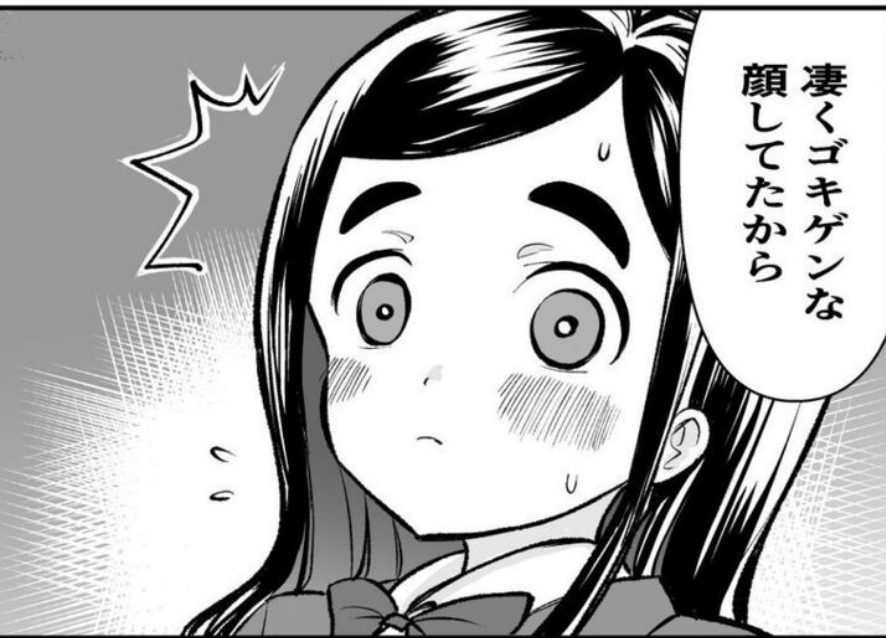


野菜
運ぶの手伝おうと
思ってる

いいよ
そんな

良いから
貸して

あ、
ありがとう

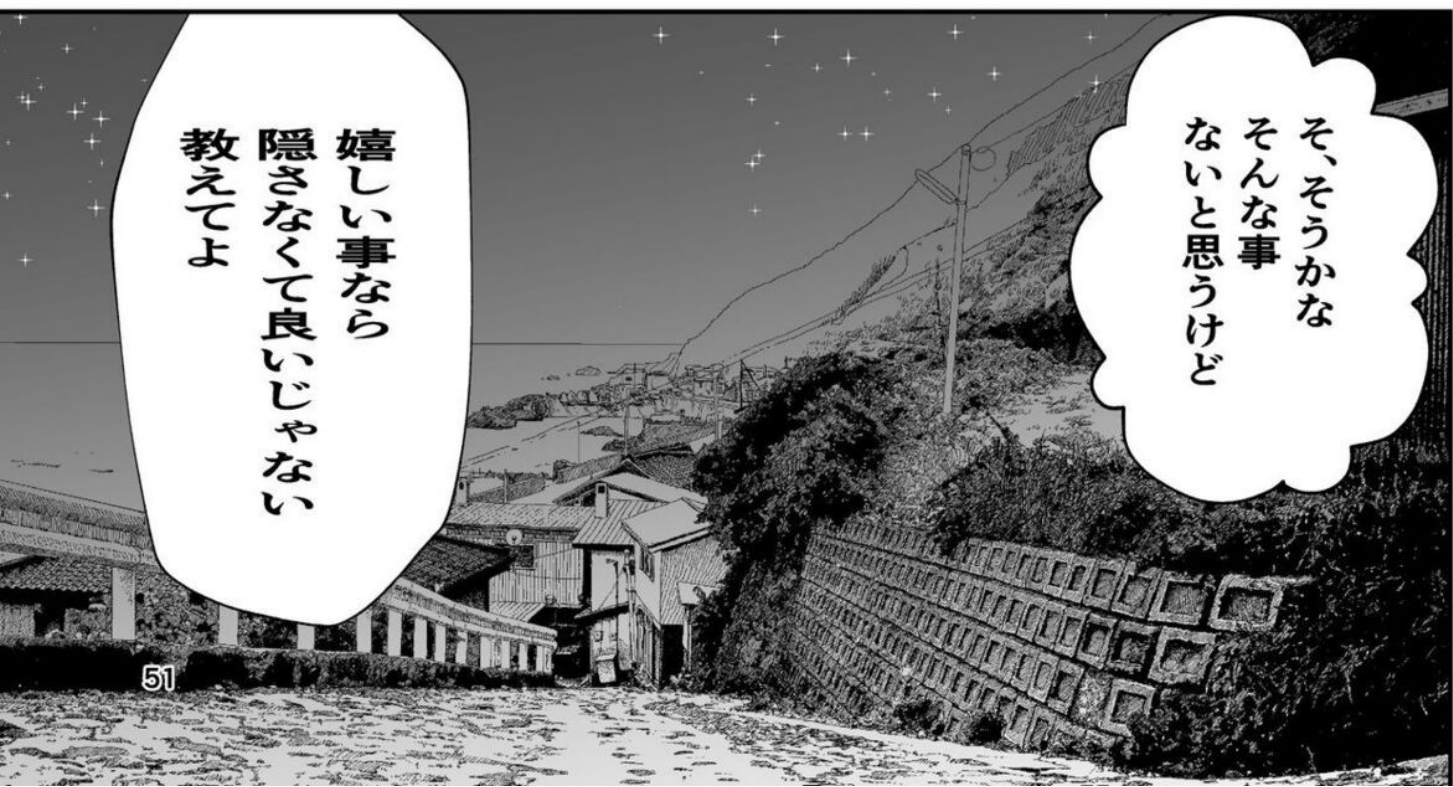


凄くゴキゲンな
顔してたから



何か良い事
あった？

え。



そ、そうかな
そんな事
ないと思うけど

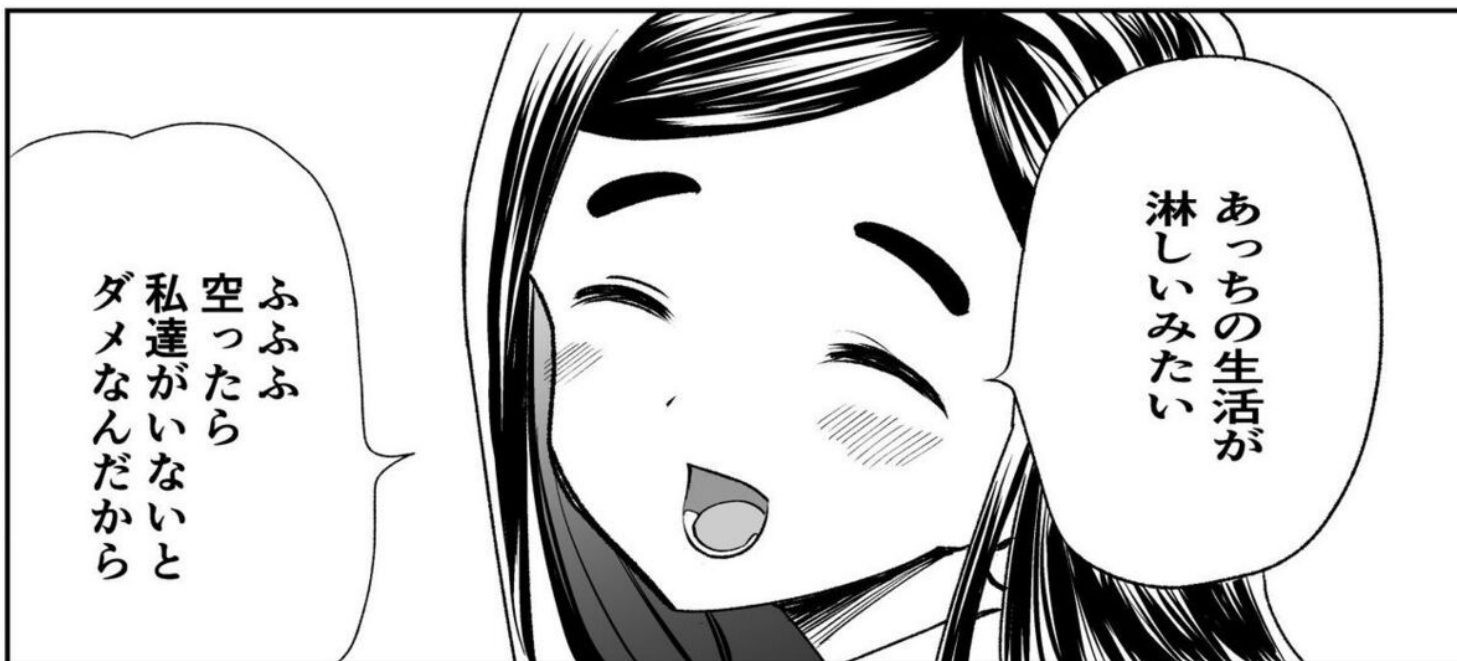
嬉しい事なら
隠さなくて良いじゃない
教えてよ



空……って
いつもみんなが
話してる
男の子だね



さっきね
空が
来てたの



あっちの生活が
淋しいみたい

ふふふ
空ったら
私達がいないと
ダメなんだから





向こうで
彼女も
出来たみたいだし

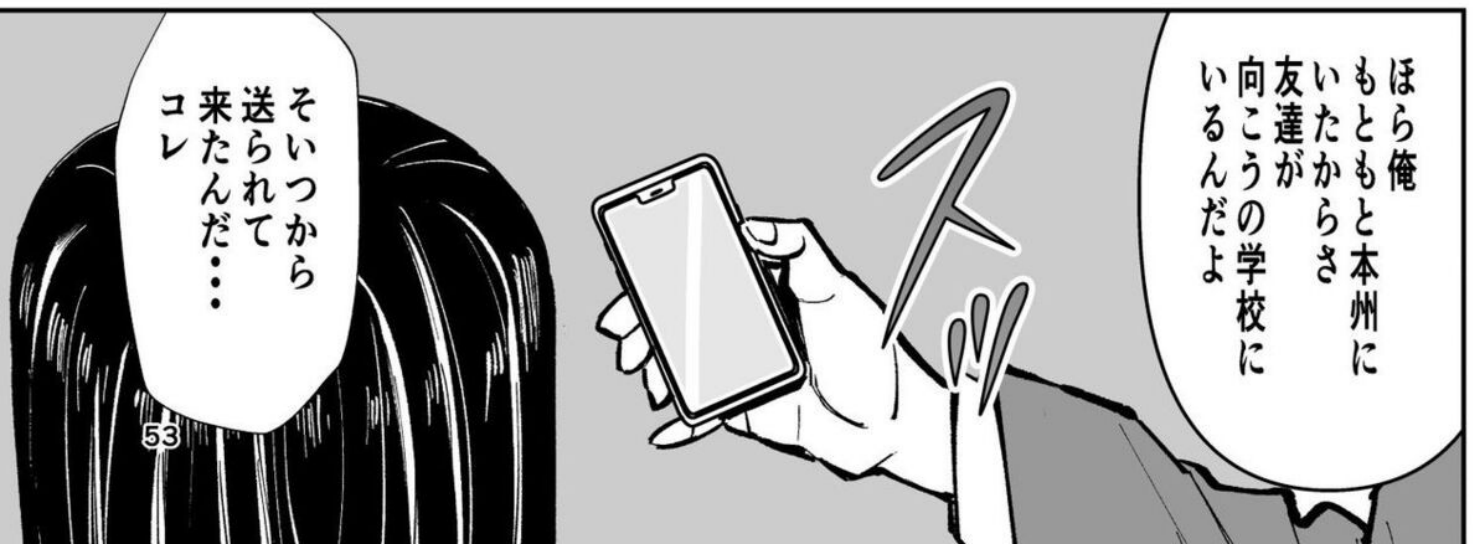


そうかな？

彼、あっちで
楽しくやってる
みたいだけど

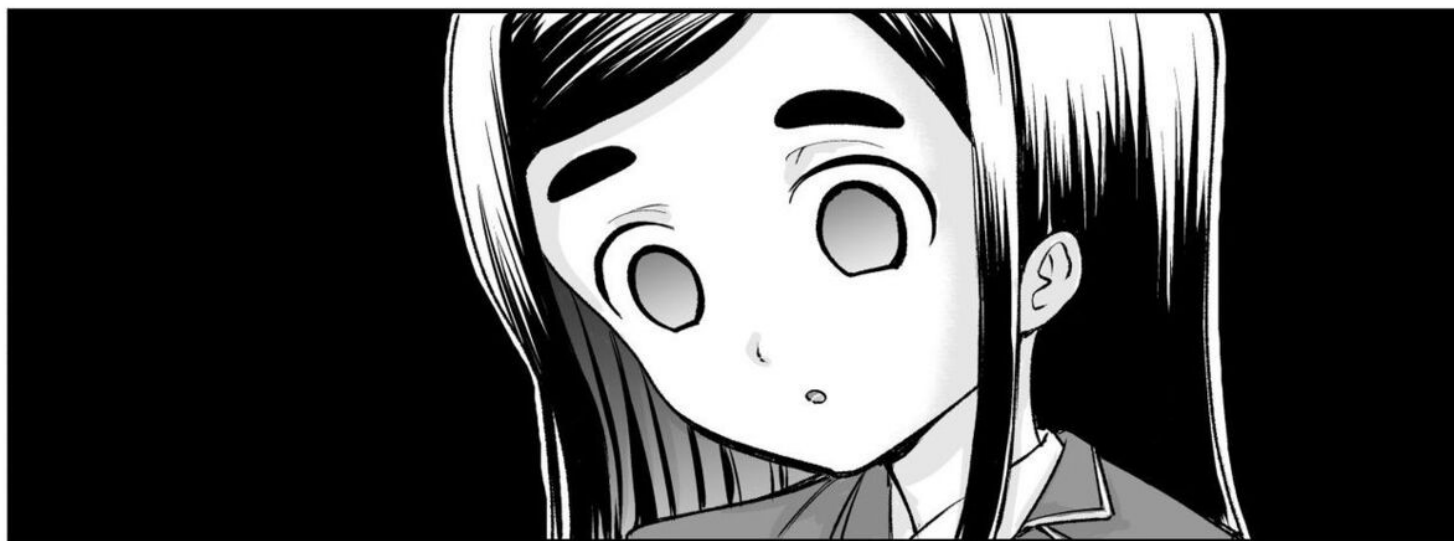
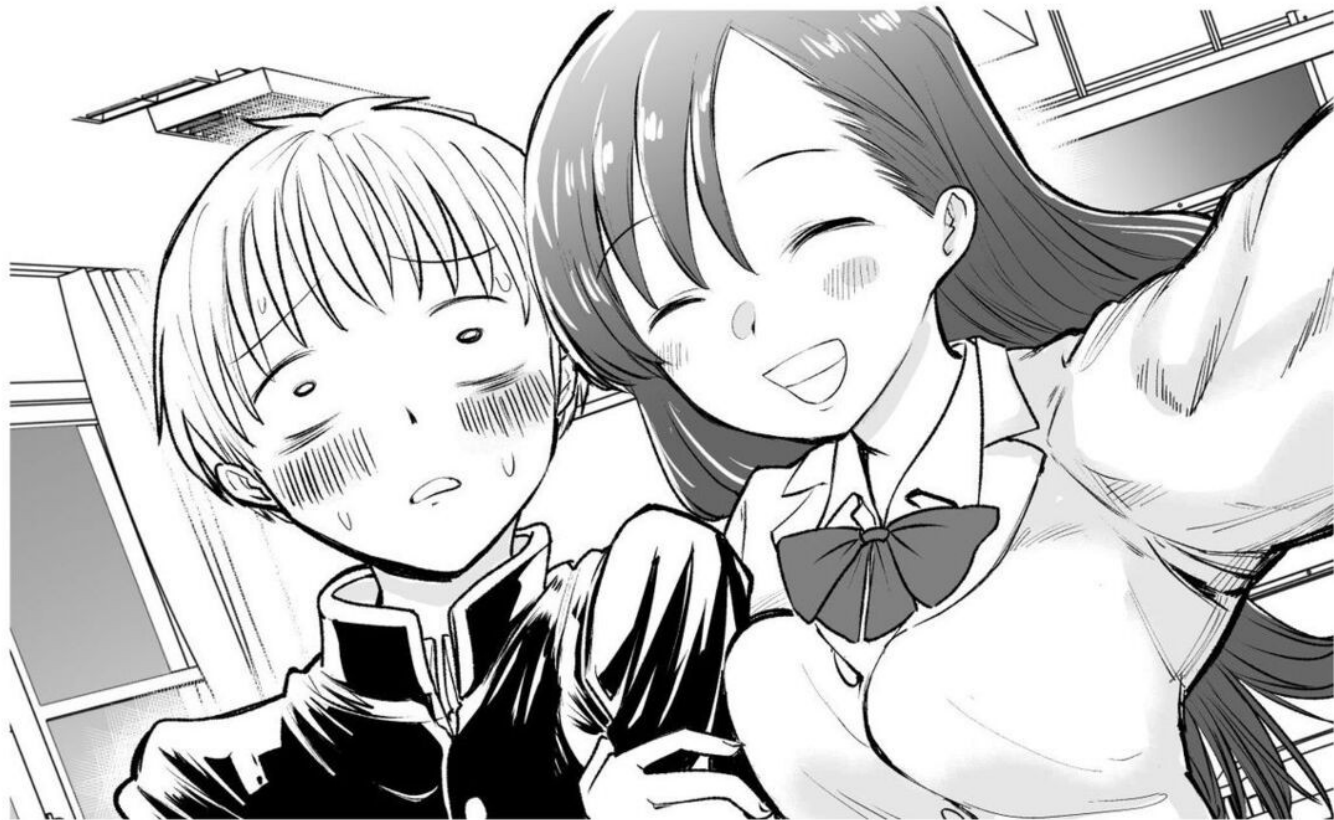


え？



ほら俺
もともと本州に
いたからさ
友達か
向こうの学校に
いるんだよ

そいつから
送られて
来たんだ…
コレ





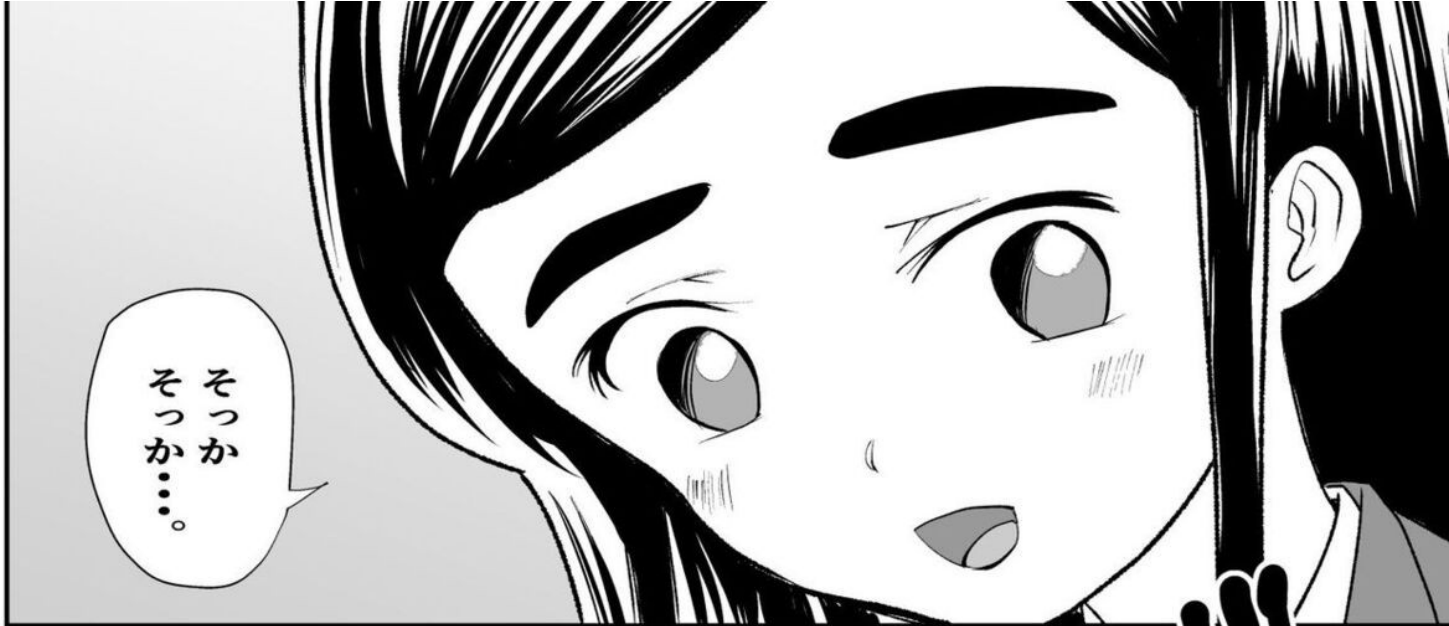
空はお別れを
言いに来たん
だよ



お別れ？



空は
藍ちゃんの気持ちを
知っていて
自分の事を諦めて貰うために

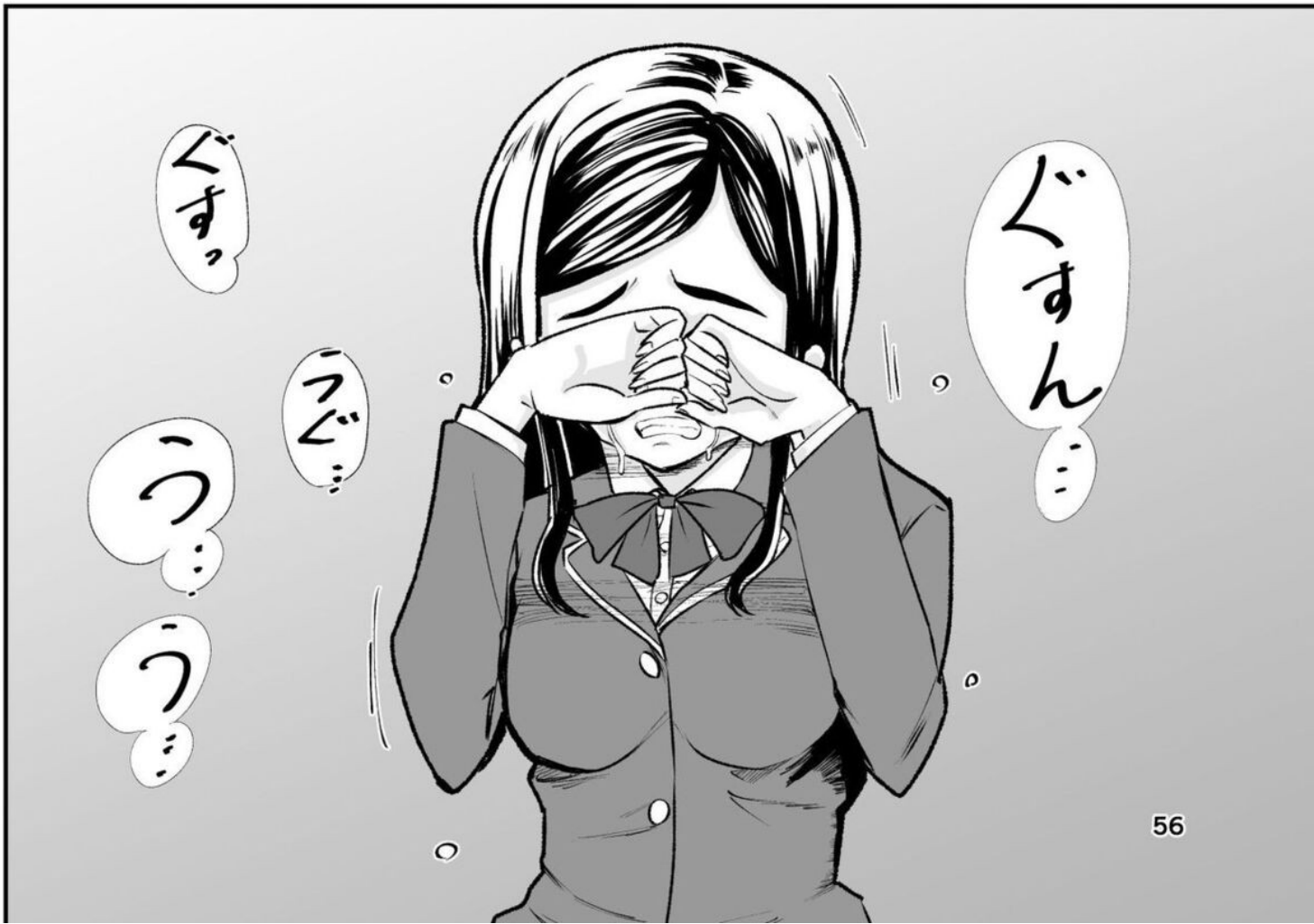


そっか
そっか...



うんうん

わあ...



ぐす

ぐすん...

うんうん

うんうん

うんうん





絶対
空いたもん



茜
まだ言ってるのか？
よっぽど空に
会いたいんだな



この私が…

間違うはず
ないもん



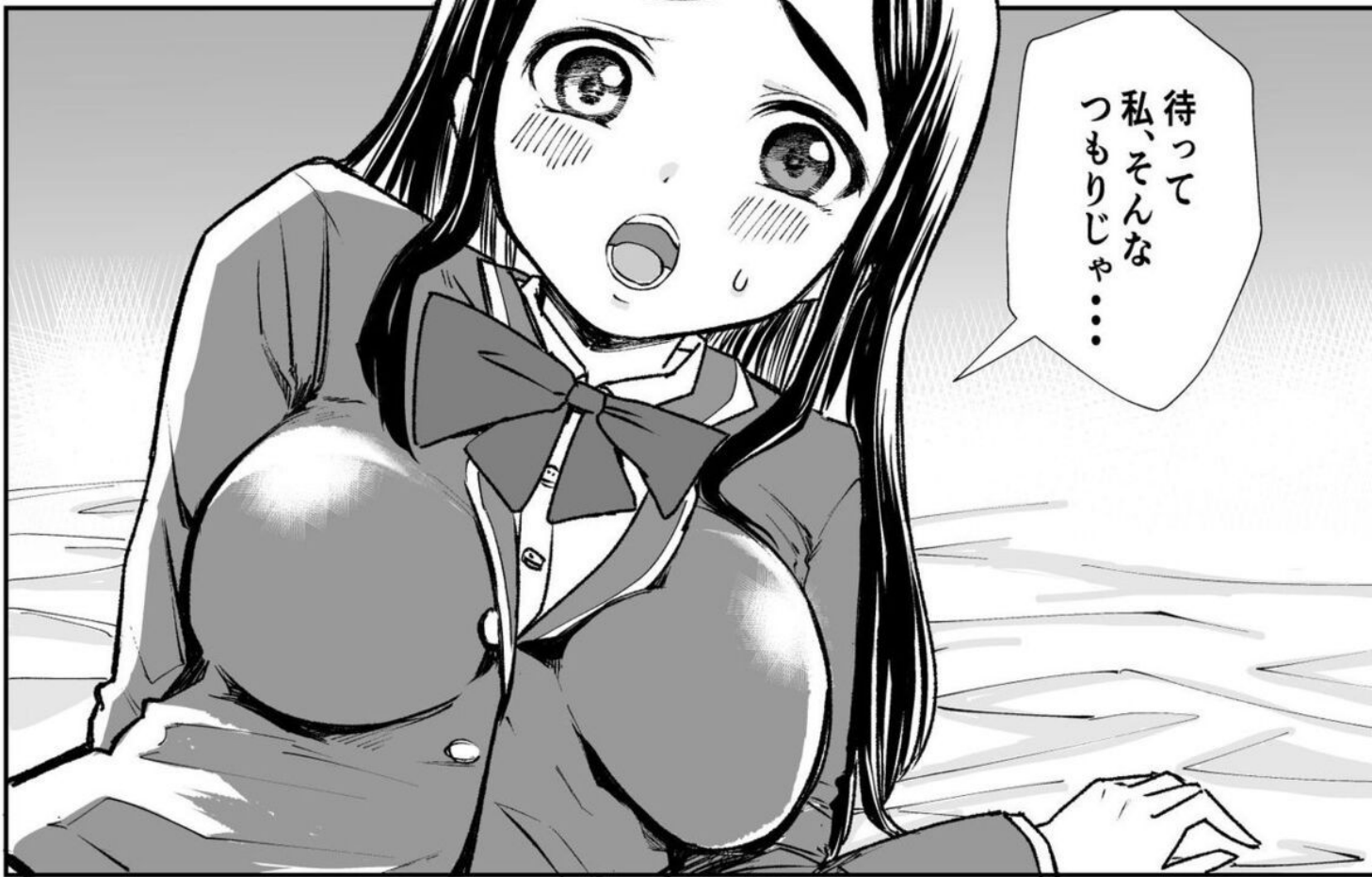
気のせいじゃ
ないもん

空の
匂いがしたもん



空の事を
ずっと…。

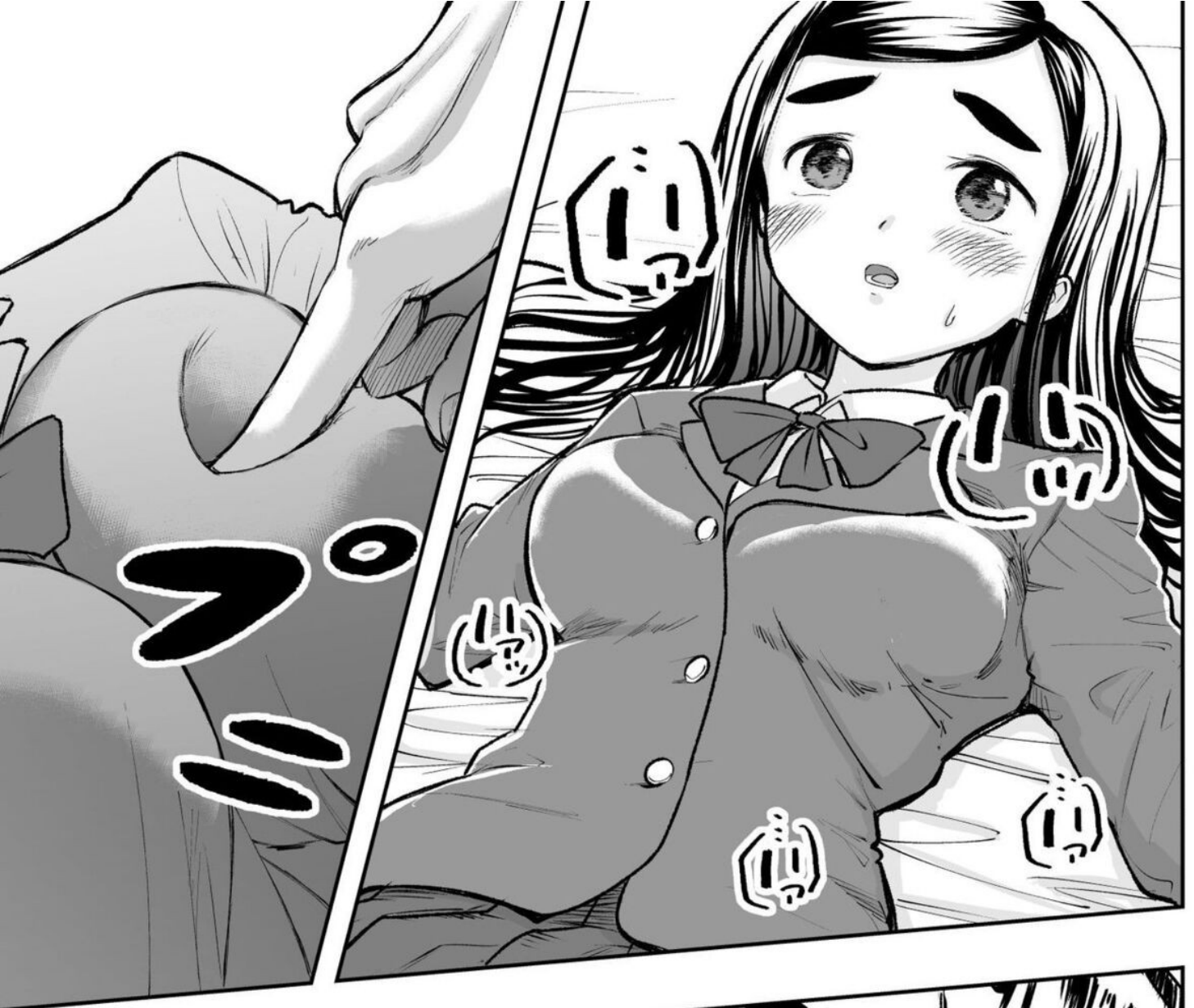
だって私は

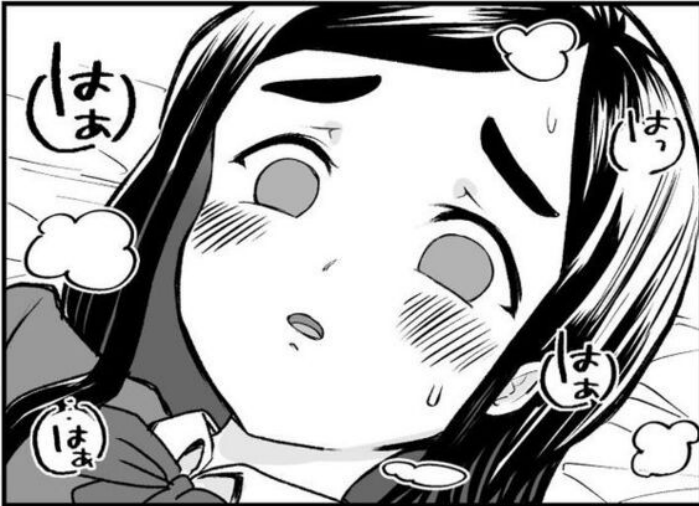


待って
私、そんな
つもりじゃ……

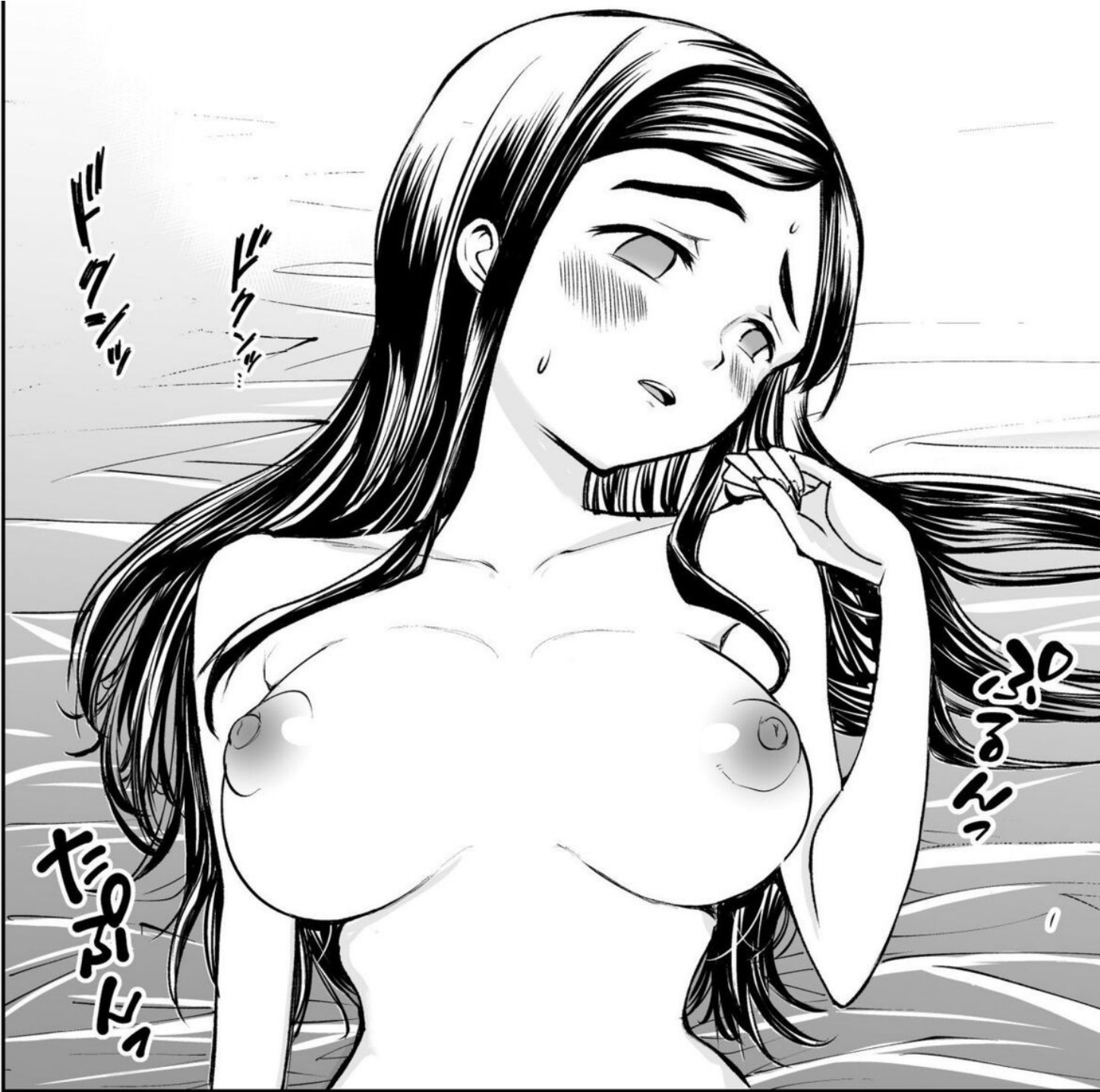


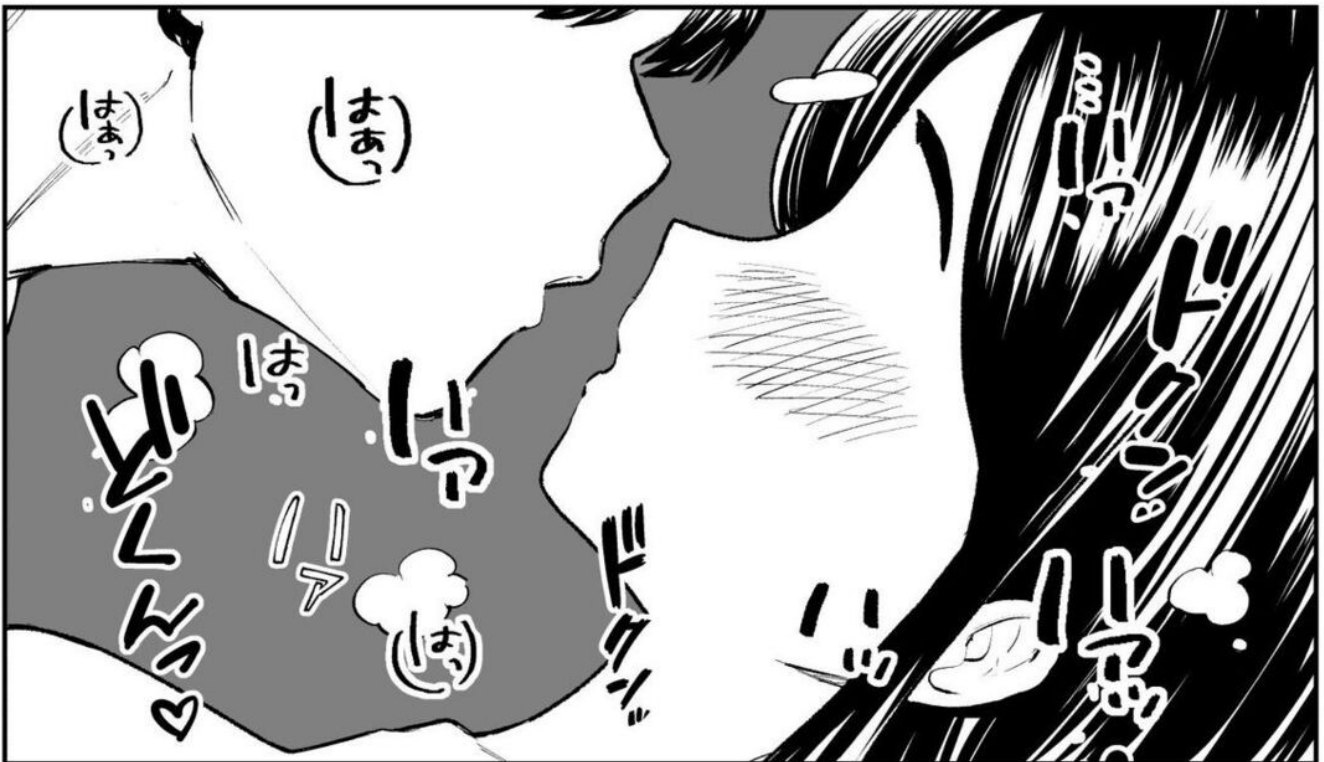
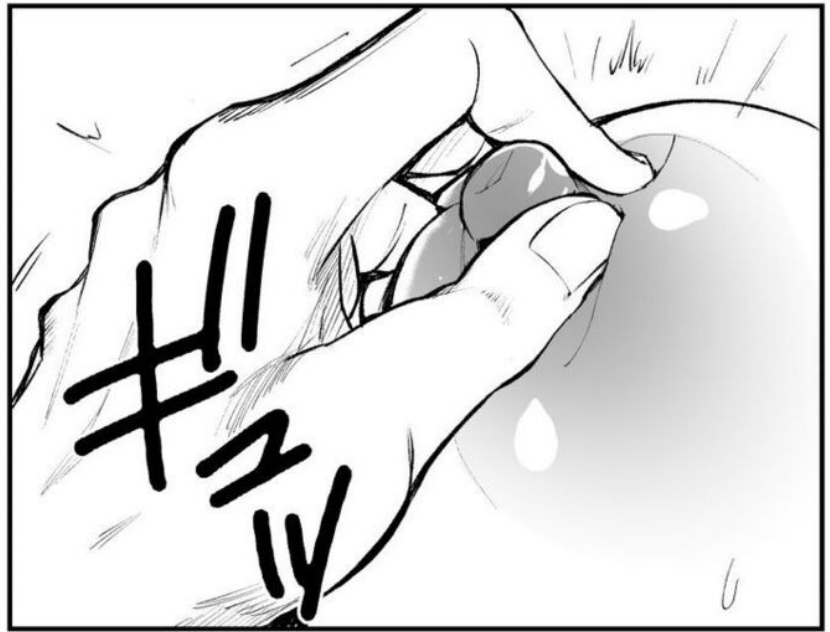
ここまで来て
そういうのは
なしだよ













そうだ
藍にお礼の
メッセージ送っておこう



藍
今日は藍と話せて良かった

皆人と離れて
暮らすようになって
俺は少し心細く
なっていたのかもしれない



それは俺にとっても
同じだ
藍や皆んなの代わりに
なる人間なんて
誰一人だっていない
皆んな大切な仲間だ



けど、俺の代わりになる
人間なんていない
そう言ってくれたよな

藍のかけてくれた言葉で
改めてそう思えたんだ

藍
ありがとう

例え離れていたって
俺達はずっと繋がっているよな

ぽんっ
ぽんっ
ぽんっ

おほっ

あ、

じゅっ

グチュッ♡

おほ

はん

ぽんっ
ぽんっ
ぽんっ

ぽんっ

グチュッ♡

ん？…

ぽんっ

おほっ

おほ

じゅっ

おほ

おほ

ああ

おほ

やっ…

あん

おほ

おほ

おほ



ピロン

chapter2〜続〜∞

次回予告

再び島を離れて
暮らす空

そこに

島での幼馴染の一人
翠が訪ねて来る



一人



幼馴染と三晩
一っ屋根の下



この光景は一体……

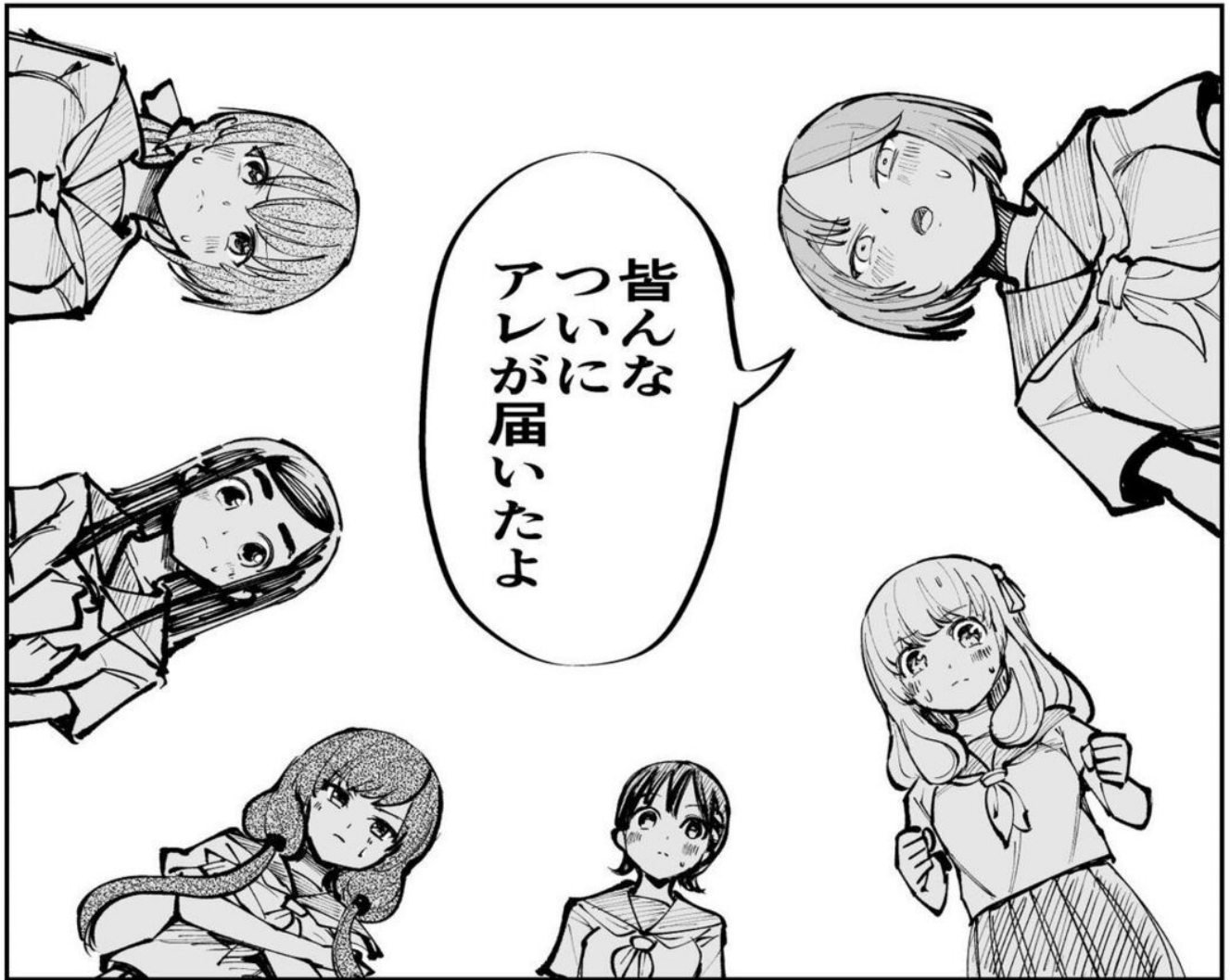
次回
肌色の青春 chapter2
2022年 冬発売予定



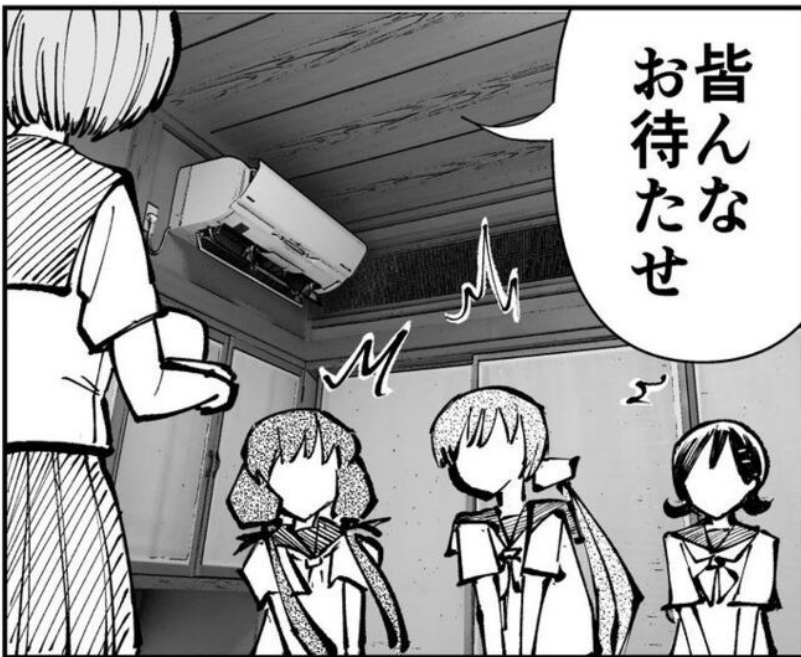


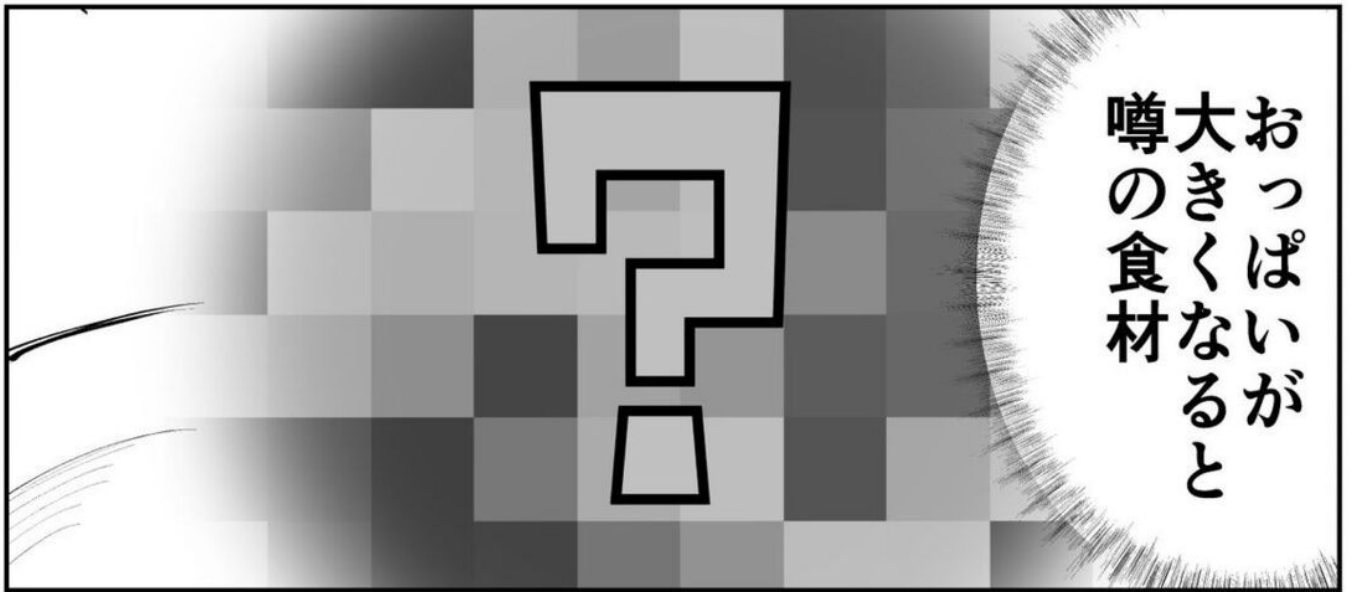
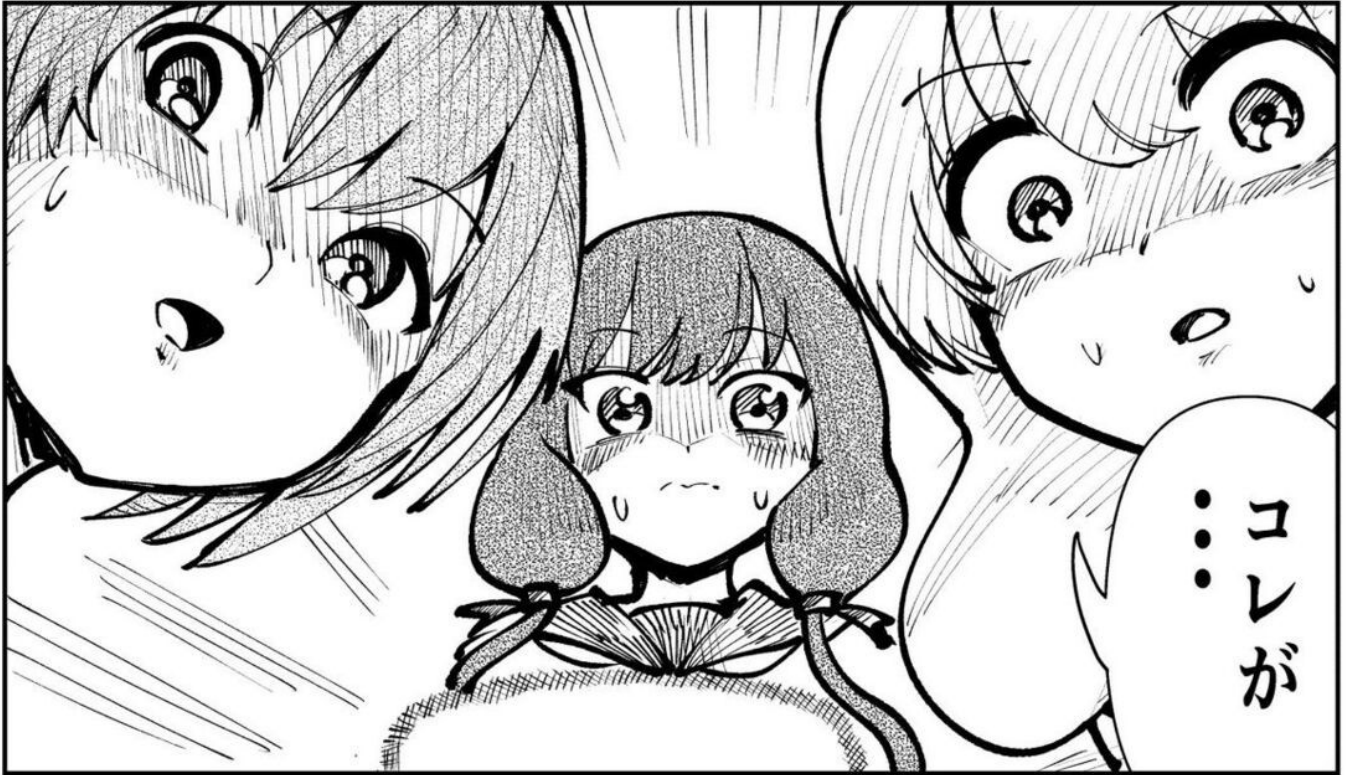
おまけ

まだ空が
島にいた頃……



みんな
アツいアレ
が届いたよ

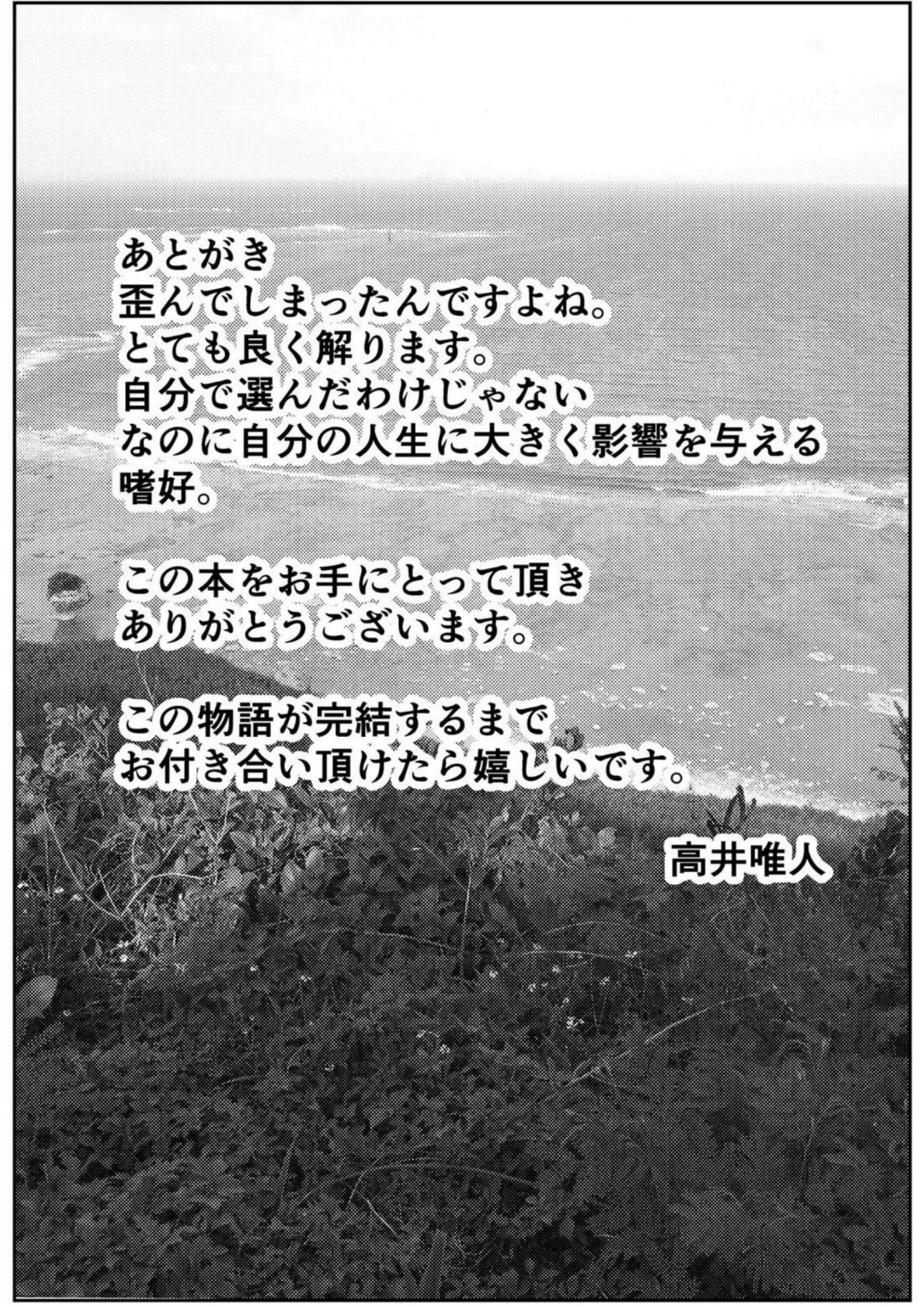




この食材の
効能か
真偽は不明だが

6人全員の胸は
それはもう
すくすくと
育まれて
いったという

めでたし
めでたし



あとかき
歪んでしまったんですよね。
とても良く解ります。
自分で選んだわけじゃない
なのに自分の人生に大きく影響を与える
嗜好。

この本をお手にとって頂き
ありがとうございます。

この物語が完結するまで
お付き合い頂けたら嬉しいです。

高井唯人

この漫画について
電子書籍での星評価、レビュー

SNSやブログなどでの
拡散していただけると嬉しいです
どうかよろしく願いいたします

高井唯人のTwitter(@takaiyuito)もフォローして
頂けたら
次話配信の予定などもチェック出来ます

この漫画は背景素材の一部に
銀杏社様:漫画街 (c)山本直樹先生の背景素材を許可を頂いて使用しております

拙作『僕はラブソングが歌えない』

作:高井唯人

(発売:双葉社)

も、
よろしく
お願いいたします



僕はラブソングが歌えない (全2巻) Kindle版

www.amazon.co.jp

